

野口保興先生著
地理教科用圖書

- | | | | | | | | | |
|--------------|--------------|----------|----------|----------|--------------|-----------|-----------|---------|
| ● 中等地理教科書 | ● 中等普通地理教科書 | ● 女子本邦地誌 | ● 女子外國地誌 | ● 女子地文大意 | ● 中等輯製新地圖 | ● 中等日本新地圖 | ● 中等外國新地圖 | ● 世界大地圖 |
| 全四冊 | 全四冊 | 全一冊 | 全一冊 | 全一冊 | 全二冊 | 全一冊 | 全一冊 | 全五冊 |
| 本邦之部
外國之部 | 本邦之部
外國之部 | | | | 本邦之部
外國之部 | | | |
| 下卷
九十五錢 | 上卷
九十五錢 | 近刊 | 近刊 | 近刊 | 壹圓 | 近刊 | 近刊 | 近刊 |
| (定價) | | | 七十錢 | | | | | |
| | 六十五錢 | | | | | | | |

野口保興著 外國之部 上

中等
教育
普通地理教科書



東京 成美堂
目黒書房 合梓

中等普通地理教科書

例言

一 本書は中等教育の地理科教授用に充つる爲に編纂せしものにして分ちて本邦地誌、外國地誌、地文大意、地理汎論の四部と爲せり、然れども此等の四部は相俟ちて普通地理を組成すべきものなれば土地と人生との關係を經とし本邦と外國との關係を緯とし以て地理科の目的に達せんことを期せり

一 本書には次に掲げたる表の如き時間の配當に基づきて普通の地理を課することとなしあるも時間の多少、土地の情況等に據り教授すべき項目に取捨増減あるは毫妨げなしとす

第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
本邦地誌	外國地誌 (あじあ)	外國地誌 (れせわにわ) (よーろっば)	外國地誌 (あふりか) (あめりか)	地文大意 地理汎論
毎週二時	毎週一時	毎週一時	毎週一時	毎週二時

一 本書中に大小二種の活字を用ひたるは主要部と補助部との別を明にせんが爲めなり、主要部とは教授すべき事項を記述せしを云ひ補助部とは参考に供するに過ぎざるものを云ふ、然れども處誌又は其の他に於ても時間の多少、土地の情況等に依りて細書せるものの中に就きて若干の事項を特撰して説明を爲すは適宜なりとす

一 本書に統計表を挿入せるは閱覽の際、自然に着實正確の思想を養はしめんとするの微意に過ぎず

一 山岳の高、河流の長、人口の多少等に就きて記憶せしむるの要ありと認むるときは其の大意に止むるを以て足れりとす、例へば帝國の人口を四千五百萬と爲し富士山の高を三千八百米突と爲すが如し

一 本書中に米突的度量衡法を用ひしは該法が理論上、最良の度量衡法たるのみならず法律上、我が國の度量衡法と成りたれば從來の度量衡と米突度量衡とを併用し得るの慣習を作らんが爲めなり

- 一米突 三尺三寸
- 一杆 九町十間
- 一糶 三分三厘
- 一耗 三厘三毛
- 一方粒 百町八段三畝十步

一方精ヘンクタル

一町二十五歩

四

一冠クラウン

二百六十六匁六分七厘

一噸噸 或は佛噸 とも云ふ

二百六十六貫六百六十七匁

而して一方里は一千五百五十五町二段歩に等しうして一五方四二三に當れり

一 米突法に屬せざる度量衡の中にて本書に用ひたるものを掲げんに一哩陸上に於ける距離を測るに用ふは一六〇九三一四九九に當りて凡そ十四町四十五間なり、一漚海上に於ける距離を測るに用ふは一八五一八五五に當りて凡そ十六町九分七厘五毛なり、一節節は一五四三八八に當りて凡そ八間二尺九寸二分なり、一尋尋は一八二八八八に當りて凡そ六尺三分なり、一英噸佛噸は一〇一六〇四四に當りて凡そ二百七十貫九百四十六匁なり

一 温度は總べて攝氏寒暖計即、百度法に依れり

中等 普通地理教科書

外國地誌上卷目次

あとあ洲

總論	一
東部	二七
南部	七五
中部	一一三
西部	一一七
北部	一二三
ねせあにあ洲		
大陸部	二
嶋嶼部	一六

あじあ洲

中等普通地理教科書

外國地誌

あゝあ洲目次

總論

自然之部

政治之部

東部

韓國

清國

香港

澳門

南部

七四

七三

三九

二七

六

一九

一

六

六

六

六

印度支那……………七五

フランス領……………七八

暹羅國……………八一

イギリス領……………八四

マライ群嶋……………八六

アメリカ領……………八八

オランダ領……………九一

イギリス領……………九五

印度……………九六

其一 印度半嶋……………九六

獨立部……………一〇五

イギリス領……………一〇六

ホルトガル領……………一二二

フランス領……………一二二

其二 セイラン嶋……………一二二

中部

バルシスタン……………一二四

アフガニスタン……………一二五

ペルシア國……………一二五

西部

アシアトルコ……………一二七

キプロス……………一二一

アラビア……………一二二

北部

アシアロシヤ……………一二三

コーカシア……………一二四

中央アジア……………一二六
シベリア……………一二九

中等普通地理教科書

野口保興著

外國地誌

あトあ洲

● 總論

自然之部

アジア(亞細亞)洲は舊大陸の北部より東部に亘れる陸地にして五大洲中の最大なるものなり

極南	ハリ島の南端	南緯	凡そ九度
極北	ナリウス岬	北緯	凡そ七十八度
極西	小アジアの西端	東經	凡そ二十六度
極東	東岬	西經	凡そ百七十二度

位

置

從來マレシアの一部としてオセアニア洲に編入せられたるヒリッピン群島、ボルネオ島、大ソンド列島を本洲の所屬と爲したるが故に極南の地は南緯凡そ九度と成りたれども、此等の島嶼を除けばマラッカ半島のロマニア岬は極南の地と成りて北緯凡そ一度三十五分に當れり

本洲は北に北氷洋、東に太平洋、南に印度洋を扣へ、西はウラル山脈、ウラル河、カスピ海、コーカス山脈、アツフ海、黒海、ボスホルス海峡、マルマラ海、ダルダネル海峡、エーシヤ海に據りてヨーロッパ洲と境を接し、エスの地峽に依りて僅にアフリカ洲に連かれり

南北は短くして七千軒を有し、東西は長くして一萬五千軒に達せり

沿岸嶋嶼の南部に當るマライ群嶋を本洲に附屬せしむると否らざるとに依りて本洲の地積は或は四千四百五十

境域

廣袤

面積

海灣

萬方軒と成り或は四千二百五十萬方軒と成る

本洲は三大洋に面するを以て之に附屬する海灣も亦少なからず

北氷洋 オブ灣

ペーリリン海 オホーツク海(北海)

太平洋 日本海 ペートル大帝灣 元山灣 黃海 遼東灣

直隸灣 東支那海(西海) 南支那海 東京灣 暹羅灣

印度洋 ベンガル灣 マナアル灣 アラビア海 カンベイ灣

オマン灣 ペルシヤ灣 アデン灣 紅海

地中海 エーシヤ海 マルマラ海 黒海

本洲に屬する海峽の中にて主なるものはペーリリン海峽、

樺太海峽、朝鮮海峽、臺灣海峽、マラッカ海峽、バルク海

峽、オルムス海峽、バプエルマンデブ海峽、ダルダチル

島 嶼

海峽、ボスホルス海峽等なり
本洲に屬する島嶼は其の數少なからざるも配置は東方に偏して主要なるものは概東部の沿海にあり又島嶼の地積は全州の十六分の一に當れり

北部 リアユフ諸島 アンジイ諸島 ウランゲル島

提督諸島 千島列島 日本群島

東部 琉球列島 臺灣島 ヒリピン群島

ボルネオ島 大ソングダ列島

南部 アンダマン列島 ニコバル列島 セイラン島

ラカダブ諸島 マルダブ諸島

西部 キプロス島 ロドス島 スポラド諸島

本洲に屬する諸半島の地積は全州の五分の一に當れり

北部 ラルマル半島 タイムイル半島

半 島

地 角

東部 カムチヤガ半島 朝鮮半島 遼東半島

山東半島 廣東半島

南部 印度支那半島 マラッカ半島 印度半島 デカン半島 グーワラト半島

西部 アラビア半島 シナイ半島 小アジア半島

主要なる岬崎は左の如し

北部 スクラトフ岬 ナエリウスキヌ岬

東部 東岬 ロバツカ岬

南部 カンボヂア岬 ロマニア岬

コモリン岬 ラズエルハンド岬

西部 クリオ岬

最著しき地峽はマラツカ半島のクラ―地峽及本洲とアフリカ洲との間にあるシエス地峽なりとす

アジア洲の海岸線は五萬八千軒なれども之を面積に比

すれば七百五十二粒に付き一粒あるのみ而して北部に於ける本大陸の海岸は甚だ簡單にして港灣の存するあるも多くは河灣たるに過ぎず、東部に於ては北方のベーリン海峽より南方の暹羅灣に至るまでの内海は半島又は島嶼にて多少區劃せらるるも亦互に相連なり、大陸の沿岸に於て更に港灣を形成せり、南部に於ける海岸は顯著なる半島又は海灣を形成するも亦良港に乏し西部の海岸は最灣曲に富める處なるが狹小なる半島多くして、海灣は深く陸地に侵入せり。

本洲の山岳は全世界中最顯著にして山脈も亦甚錯綜せり、其の方向は東西に走行するもの多數なれども、南北の趨勢を呈するものも亦少なからず。

北部の低地が最、南進せる處は印度の平野が最、北進せる

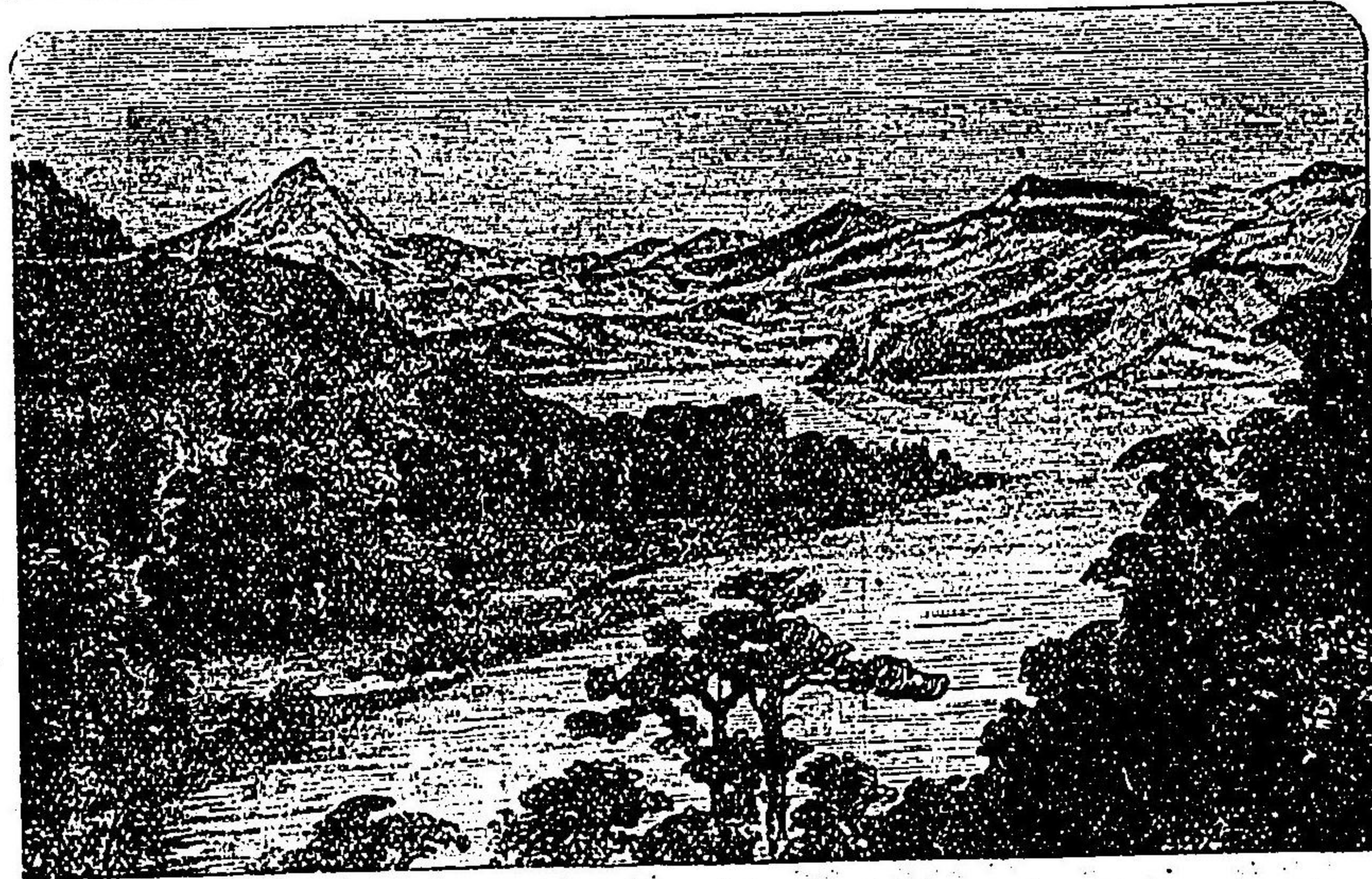
山岳

の地にして、此の兩低地の間に於ける高地は其の幅僅に數百粒にして、ヒンズークーシ山脈、パミール高原は實に世界の屋



棟たり、而して此の處より山脈は東方又は西方に走行し、カテ本洲を數箇の別(山)世界に區分せり。

河
流



(ア) (ル) (河) (畔)

本洲は其の境域内に降下する雨水の配流に對し、二大中心を呈供せり其の一はヒマラヤ山脈及西藏高原にして其の二はアルタイ地方なり、此の二大中心の外、尙天山々脈、アルメニア山彙等の小中心あり、本洲の河流の中には水を太平洋若しくは其の他の外海に注入せざるもの少なからずして、或は沼湖に水を注ぐあり、或は砂礫の

パ
ミ
ー
ル
高
原
山
脈

西 東 東南
部 北 南
部 部 部

- 崑崙山脈
- 西藏高原
- カラコルン山脈
- ヒマラヤ山脈 (ガウリサンカル 八八四〇)
- 翰海高地 雲嶺
- 支那山脈 南嶺 北嶺 陰山 興安山脈
- 天山々脈 (タングリカン 七三四〇)
- アルタイ山脈 (バルツカ 三三五〇)
- サイヤンスク山脈
- ヤプロノイ山脈 (スタノボイ山脈)
- エルプールの山脈 (ツマベンド 五四六五)
- アルメニア山彙 (アララット 五一五七)
- コーカス山脈 (エルプルス 五六四七)
- 小アジア高原 (タウリス山脈)
- シリヤ山脈 (リバン山 三〇〇〇)
- アンタリバン (二七五〇)
- アラビア諸山 (オマン 三〇〇〇)

而して其の水面は黒海に比するに二十六米突低下せり、之に次ぐものはアラル海にして面積は凡そ六万方糎に過ぎざれども海面より高さこと四十八米突の處にありバイカル湖は山間にありて面積は凡そ三万五千方糎に達し、バルカシ湖は凡そ二万方糎の面積を有するがイリール河の水を受くるも他の地に水を流送せず

此の外尙ほ稍著しき沼湖は次の如し

洞底トシシ トンレサップ ハムウン沼 ウールミア バン 死海(海面下三九四)
 インクル コソコル 羅布 青海 テングリノール バルナ 鄯陽トシ

本洲は高巒秀嶺に富むを以て全世界に冠たると同時に高地と低地との配置に就きて一種特別の情態を呈供せり
 アシヤ洲の地貌を観るに一大土塊を爲さずして相連續せる數箇の高原より成れり

地勢

小アシヤの三面とイランの南面とを除かば其の他の高原は直接に海洋に瀕することなし、廣漠たる平野は高原の周りを圍繞するか或は其の間に侵入せり

アシヤ洲の地勢の奇異なるは土地の重厚なると高地低地の配置とに止まらずして、其の東面に花彩鏈の形狀を有する沿岸島嶼の存するあるにあり

斯の如き特殊の情態あるは本洲をして風俗を同じうせざる數箇の別世界の集合地たらしめたる所以なり

山地はモンゾークーシヤ、カラコルン、ヒマラヤ、崑崙、雲嶺の諸山脈を始めとし、翰海、西藏、パミールの高臺地より西はコーカス、アルメニアの山脈、東は沿海シベリア并にカムチヤカの高處に至るまで概し三千米突以上に達せり
 高地は本洲の主要なる部分にして東には戈壁沙漠、タク

氣候

アマカン沙漠高地支那あり西にはイラン、アルメニア、小アジア、アラビア等の高地あり、南端にはデカンの高地あり、低地は北部に廣漠たるものあれども多くは寒冷の地に屬するか又はキシクン、カラクンの如き草原を含有せり、之れに反し北支那平地、揚子江沿岸平地、印度支那平野、印度平野、メソポタミア平野は地味極めて肥沃なり

窪地はカスピ海、死海等の沿岸にあり

本洲は概して溫和帯に屬し南の方、熱帯にあるもの并に北の方、寒帯にあるものは實に一部分たるに過ぎず、然れども海陸の關係と高低二地の配置とに基づきて本洲の氣候は概大陸的なり

夏季に於ては最低氣壓はイラン、西藏の兩高原地方にあり、從てアジアの北部及中部の最多風の方向は北東又は北



にして西アジアに就ては南西、印度并に南支那に就ては南
又は南東なり、而して此等の風向の中に於て南東并に南の風
は濕風にして其の他の風は乾風なりとす

冬季にありては最高氣壓は東シベリアにあるを以て全
アジアをして東北東、北等の風を受けしむ而して此等の風
は何れも乾燥にして大陸的なり

南東の地方并に小アジアの沿岸地方を除かばアジア洲
は概して海洋の溫和なる影響を蒙らざるが如し氣溫の變
化の激烈なるは實に他に其の比を見ず、ペルシア灣の沿岸
の如き炎熱の酷烈なる點より言はゞ實に稀有の地なりと
云ふべきはさなれども、其の位置は回歸線の北にあり、北半
球の寒極の一は北極圓下に於けるシベリアにありて、ペル
ホイアンスクに於ける寒暑の差は六十五度に（一月は零度下

月は十六度に達す) 達し而して最低最高兩溫度の差は八十五度に及ぶと云ふ

北地に於ては空氣は乾燥に失し降雨は稀なり、又降雨時期(南面は冬季、北東は夏季)の存するも至て短かく、永世雪線は五千五百米突を降る能はず此の一帶の地は草原若しくは沙漠の地なり、地味は礫角にして牧畜に適するのみにて住人は甚稀薄なり、耕作は絶對的に行ふを得ざると云ふに非ざるも住民の非常なる勞力に依るに非されば効果を奏する能はず、然れども南東アジアの季候風地方は降雨甚多く其の量平均四米突にて中には十二乃至十五米突に達する處あり、斯の如く多量の降雨あるのみならず氣温は炎熱に過ぐるの嫌あるも激變の憂少なくして、印度、大ソング列島より南東支那、并に日本の南部に至るまでの地に熱帶的植物の繁

天 産

茂を來たせり且又南東地方に大河巨流の多きは亦此の降雨の饒多なるに因らずんばあらず、而して此等の河流は肥沃なる壤土を輸送し來りて其の流域を填充し、豊富なる平野を成生して全世界中、人口の最稠密なる國土を視出せり

シベリア地方に於けるも南部にありては樹木の繁殖盛にしてキルギズ草原の北に一帶の森林あり而して毛皮獸、麋、馴鹿等は此の地方の特産なり

西アジア并に中央アジアは酷熱炎暑の草原地にして山羊、綿羊等の産多し

地中海沿岸の地は多く果實を産す、水利ある地は穀類を始めとして綿草、藍草等の耕作に適せり、又駱駝は此の地方の好力役動物なり

季候風アジアは地味佳良にして溫度濕度の適順なる土

地なれば農業に適するは勿論にして特に米を産すること夥しく大に人類の繁殖を幫助したるが如し、其の他の穀類は印度の臺地に豊熟し阿片はガンジス河畔に生じ、茶葉、桑葉は清國、日本に産し丁香、肉桂、胡椒等の香料はマラッカ半島、ソンダ列島の名産たり、又蒼蔚たる籐原并に人跡の到らざる森林の中に象、虎等の如き猛獸、奇獸の棲息するあり。是に由て之を觀れば本洲は溫度、濕度を始とし、動物、植物の分布に至るまで均一の配賦を受けたるの地に非ず、季候風の恩惠を蒙る地方の如きは全世界中屈指の豊土、饒地にして草木繁茂し人口は亦極めて稠密なり、之に反して北部の寒冷の地、西部の礮角の土には物産少なく、住民も亦至りて稀薄なり。

礦物はシベリアに金、銀、白金、等を産し、金剛石、其の他の寶

石は印度に生じ、石炭は日本、印度支那等に多し。

政治之部

人
口

本洲の人口は八億五千萬に達して世界の人口の半以上に相當するも、粗密の點に於ては本洲(一九)のヨーロッパ(三八五)に及ぼさること遠しとす、然れども人口の配布は山脈、河流、氣候、天産等の情態に由るものなれば、場處に依りて人口の粗密に非常の懸隔差異を生じたり、季候風諸國の人口はアジア全洲の人口の百分の八十五に當りて、日本、支那并に印度は全地球中、人口の最、稠密なるの地方とす、一平方料に付きての人口の多きこと實にヨーロッパ洲も及ぼさる所なり、然れども之に反して他の部は人口非常に稀薄にして一平方料に付きて三人に過ぎざる所あり。

パミール高原は地勢に對して東西アジアの境界を爲すのみならず、人類の繁殖上より觀るも亦蒙古人種とアリヤン人種との境界たりとなり、然れども人類の發達は斯る天然の分界線を打破して互に侵入し、蒙古人種の西アジア、ヨーロッパに往住するあり、アリヤン人種の東アジアに來住するあるに至れり

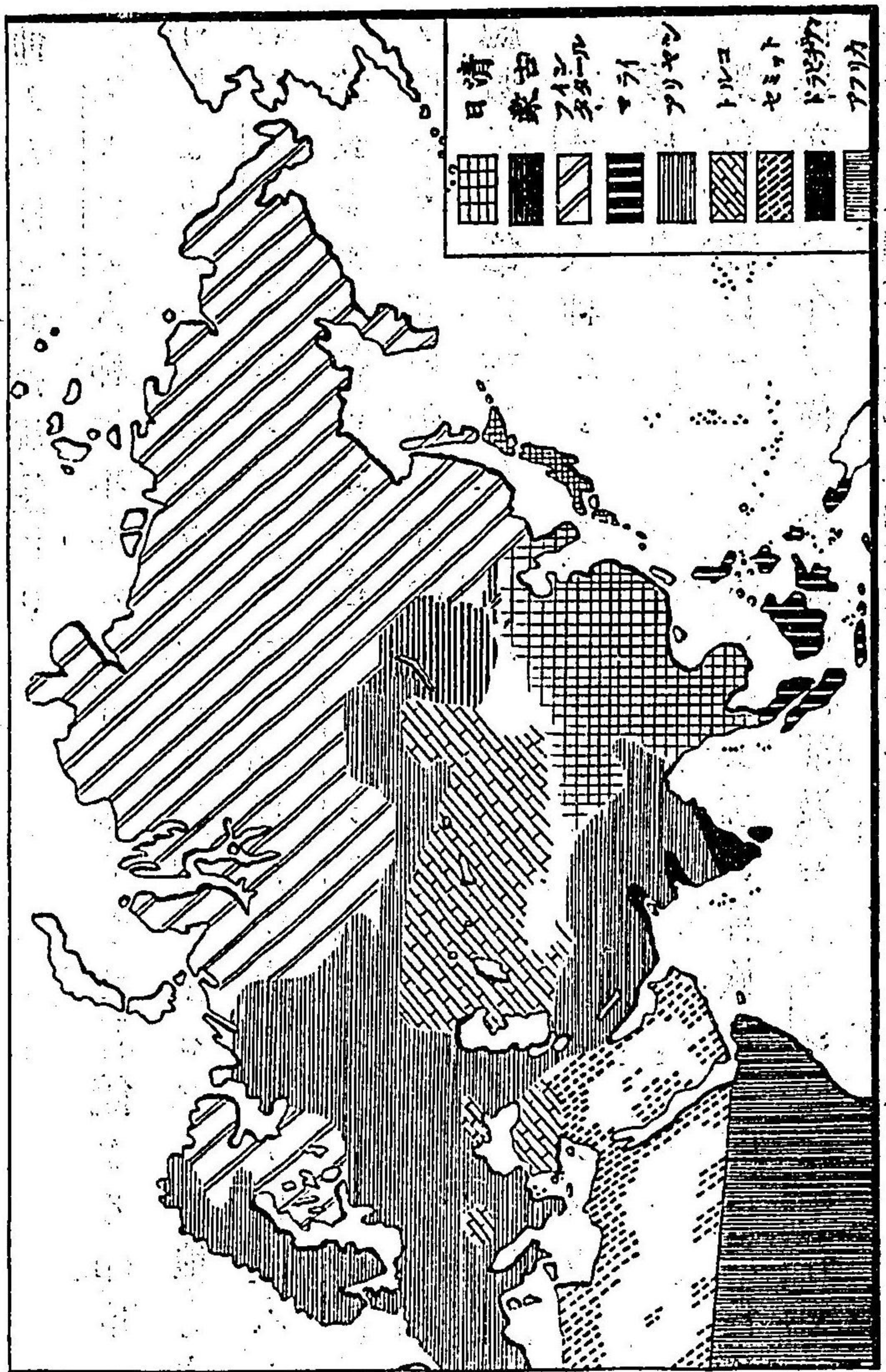
蒙古人種(五億七千五百萬)は太平洋沿岸の全部を占むるも、其の境域は西の方に趣くに從ひて狹窄を以て本人種の居住區域を二部に分割せり、其の北部はトングス、ヤクト、サモイエード、オスタラク、フィン、の數種族を包括し、其の南部并に中部にあるものは朝鮮人、滿洲人、支那人、安南人、ビルマ人、西藏人、トルコメーヌ、キルギズ等の種族に分れ、本邦人の如きも此の派に屬するものの如し而して蒙古人種の一

部は裏海の後方なるコーカシア又は小アジアの地に於て他の人種と共に雜住せり

アリヤン人種は本洲の南部に多くして豊饒なる印度の平野よりイラン高原、アルメニア臺地に至るまでの地を占む又アラブ人はシベリアの中部并に中央アジアに侵入して狹長なる一帯の地を占めギリシア人、ルバン人は小アジアにありて其の數も亦少なからず、此の種に屬する住人の總數は二億に達せり

セミット人種はシリア、アラビア并にウーフラテスの流域に棲居せり

黒色人種にダシウス、ムレナッス等の種族あり印度最舊の住民なるが今は僅に半島の南部及セイロン島に生存するのみにて其の數は至りて少なし



宗教

マライ人種は其の數二千万内外なるべきが大ソンドラ列島并にマラッカ半島の一部に棲息せり

本洲が優等なる宗教の淵源たるにも拘らず、當今に於ける宗教の勢力は甚盛ならざるが如し、印度の住民二億九千萬の大多數は古來ブラマ教を信仰し、アジアの東部並に中部の蒙古人種(五億)は概して佛教を奉じ、シベリア教徒(五十萬)、耶蘇教徒(五百萬)は小アジア、ブルメニア、シベリア、シリア、印度、印度支那等の諸國に散居し、マホメット教徒(一億三千萬)はアジアの西部并に中央部を占領し、尙漸次に印度地方并に支那の北部に侵入して其の勢を逞しうせんとせり、其の他マラッカ半島、大ソンドラ列島に於けるも亦此の種の教徒の彌漫せるあり

アジア洲の經濟的價値の如何を略述せん、北部の林業、

生業

列 國

鑛業並に西部の牧業は現今の該地方居民が生産上、唯一の業務と爲す所なり然れども南部シベリア、トルケスタン、メソポタミア、小アジア、シリア等は勿論アラビア地方に於けるも多少の饒地沃土のあるありて人力の補助と交通の開進とを待ちて將に穀類、煙草、珈琲等を産出せんとするものゝ如し、而して豊饒なる印度地方並に殷富なる東部アジアは夥多なる原料を供給するのみならず又此の土に住居する稠密多數の人口は製作したる物品を需要するが故に工業的貨物の好販路たり

本洲に於ける各國の面積、人口、都府等を掲載すれば左表の如し

列 國	面 積	人 口	一平方 里 付 人	都 府
日本國	四二、五〇〇 <small>方里</small>	四五、〇〇〇、〇〇〇人	一〇八	東京
韓國	二二、八六五〇	七五〇、〇〇〇	三四	京城

東 部		南										
清國	イギリス領	フランス領	交趾支那	東京	安南	柬埔寨	暹羅國	イギリス領	海峽殖民地	マライ保護地	アメリカ領	イギリス領
一一〇、七〇〇、〇〇〇	七九	四八、九五〇〇	五九、五〇〇	一〇〇、〇〇〇	二二、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	五二、〇〇〇	六、八四九八	三九、九八	六、四五〇〇	二九、六一八二	一一、〇〇〇〇
三、五七二五、〇〇〇〇	二、三一六六二	一八、六九、一〇〇〇	一八七、六六八九	一〇〇、〇〇〇〇	六〇〇、〇〇〇〇	八一、四七五四	五〇〇、〇〇〇〇	一一六、九〇二八	五五、八九三五	六一、〇〇九三	七〇〇、〇〇〇〇	五〇、〇〇〇〇
三五	二六二五	三八	三二	一〇〇	二六	八	九六	一七	一四〇	九	二四	五
北 京	ビクトリア	柴 棍	河 内	順 化	南 旺	盤 谷			シンガポール		マニラ	

浦、南陽灣、濟物浦、鎮南浦、鴨綠江口あり

海岸に就きては東は屈折に乏しきも、南と西とは之に反して彎曲多く且、嶋嶼の之を環繞するあり、半嶋には唯一の泰安半嶋あるのみにて、崎岬には赤嶋岬、蒙白串、牧東應岬、外冬串、琵琶岬、登山串、小乳、蘆角、扶郎串あり、嶋嶼には東に鹿島あり、南に絶影島、巨濟島、南海島、西南群島等あり、西に海南群島、安眠島、江華島、喬桐島、身尾群島等あり

朝鮮は山岳多き地なり、主要の山脈は白頭山脈にして北の方、長白山脈より分派し來り半島に入りては東部に偏し蜿蜒して南下せり而して太白山附近に於て南西に向ひて走行せる一支脈あり名づけて三南山脈と云ふ、又北方に於ける白徳山脈も亦稍著しきものとなす、火山脈は本半島中に存すれども甚だ顯著ならずして活火山の噴出あるを聞か



(大 同 江 — 平 壤)

す唯温泉は處々に湧出せり

主要の山脈が東部に偏在して半嶋を縦斷せるを以て日本海斜面は狹長にして豆満江の外に大河なく海峽斜面は稍廣濶なるが故に洛東江、岳陽江の如き巨流あり、而して黄海斜面は廣袤の最著しきものなれば最、大河に富みて榮

地勢

山江、錦江、漢江、大同江、清川江、鴨綠江あり然れども、元來朝鮮國は一小半嶋に過ぎざれば最長流と雖、長は百里以内なりとす
全國の地勢は北部に高く、東部之に次ぎ、西部と南部とは稍低く、高山秀嶺と稱すべきものなきも丘陵は甚多く、て平低の地は少なきが如し而して其の平野の如きも多くは河流の沿岸若しくは海濱にありて廣袤の大なるものは存するあるなし

氣候

氣溫は概大陸的にして、夏季には炎暑に苦み冬季には嚴寒を覺え寒暑の差極めて甚しとす、降雨も夏季に甚多くて屢、豪雨の來るあり、冬季は稍乾燥なるも亦降雪なきにてもあらず、東岸并に西岸の北部は共に寒冷にして冬期には積雪の丈餘に及ぶ處ありて、河海の氷結するを常とせり、之

天産

に反して南東地方は氣候溫暖にして、大寒の候と雖、降雪は三四寸に過ぎず而して中部の地方は氣候稍溫和なるが如きも冬期に至れば河水の氷結することあり
朝鮮半嶋は天産に豊富なる地と稱すべきに非ざるも、鑛物には金、鐵、銀、鉛、銅、石炭、硫黃等あり、植物には米穀、豆類、人參、果樹、海草、楮、漆等の産あり、動物には野獸に虎、豹、鹿、青鼠、貂、獺等あり、野禽に鶴、鷺等あり、家畜に牛、馬、羚羊あり、蟲類に蜜蜂、蠶等あり、魚類に明太魚、大口魚、海參等あり。

住民

朝鮮人は蒙古人種に屬す、人口は凡七百五十萬なれば一方料の人員は三十四人と成るなり、中流以上の社會にては多く漢文を使用すれども普通には諺文と稱するもの行はる、往昔は文化の盛なる國なりしが今は百事衰頽して學問の如きも僅に虛文を尊崇するあるのみ、朝鮮人の多數は儒

道を奉信し孔孟の教を以て人倫道德の基となし冠婚葬祭の儀式の如きも概儒式と稱するものを用ふ、佛教は昔時に於ては甚盛なりしが現時にありては衰微の極に達せり又近年は耶蘇教を信するもの漸増加して信者の數は四萬に近しと云ふ、而して朝鮮人には兩班、中人、常漢の階級あり、兩班とは東班、西班を合せ稱したるものにて文武の政權を掌握し、中人は稍文筆あるも下級の官吏たるを得るに過ぎずして、常漢は農工商等の實業に従事せり、而して級外に僧尼、皮漢、才人等あり

此の國の政體は君主專治に屬するを以て皇帝は萬機を獨裁せざるべからず然れども實際には議政府なるものありて皇帝を輔佐翼賛し百般の政務を處理せり、而して議政府には領議政あり、參政あり、内部、外部、度支、軍部、法部、學部、農

政治

商工部の各部に長官たる國務大臣あり、地方の行政に就きては京畿道、忠清北道、忠清南道、全羅北道、全羅南道、慶尙北道、慶尙南道、黃海道、平安南道、平安北道、江原道、咸鏡南道、咸鏡北道の十三道に觀察使を置き、三百三十九郡に郡守を置き、廣州、開城、江華、仁川、東萊、德原、慶興に府尹を置き、濟州嶋に牧使を置き、常備兵は新式の訓練に係りて其の數は四千二百なり、韓國と修好條約を締結して通商貿易を爲す國は日本、アメリカ合衆國、イギリス、ドイツ、イタリア、ロシア、フランス、エステルライヒ、ウングアルヌ、及清國なり

農業は米、麥、蠶豆等を與へ、牧畜は牛馬を産し、漁業は鱈、鯛、鰻、鯖、鮭、明太魚等を捕ふ、鑛業は未盛ならずと雖、頗有望の事業なり、砂金は國內處々に産出し、砂鐵は良質にして産額も少なからず、其他に銅、鉛等の産あれども産額は顯著なら

生業

す又、工藝は萎靡して振はざるが僅に紙、簾、扇子、團扇、花蓆、茵、蓆、綉類等を産せり貿易は漸次に發達して明治三十年に於ては輸入に凡そ一千萬圓ありて輸出は凡そ九百萬圓ありたり而して輸出品中の重要なものは米穀、砂金、蠶豆、人參、魚類、牛革等にして輸入品中の重要なものは綿布、絹布、銅、石油等なり貿易港は從來、仁川、釜山、元山の三港なりしが近時に至り新に木浦、鎮南浦、馬山浦、郡山浦、城津浦を開き又平壤を開市場と爲せり

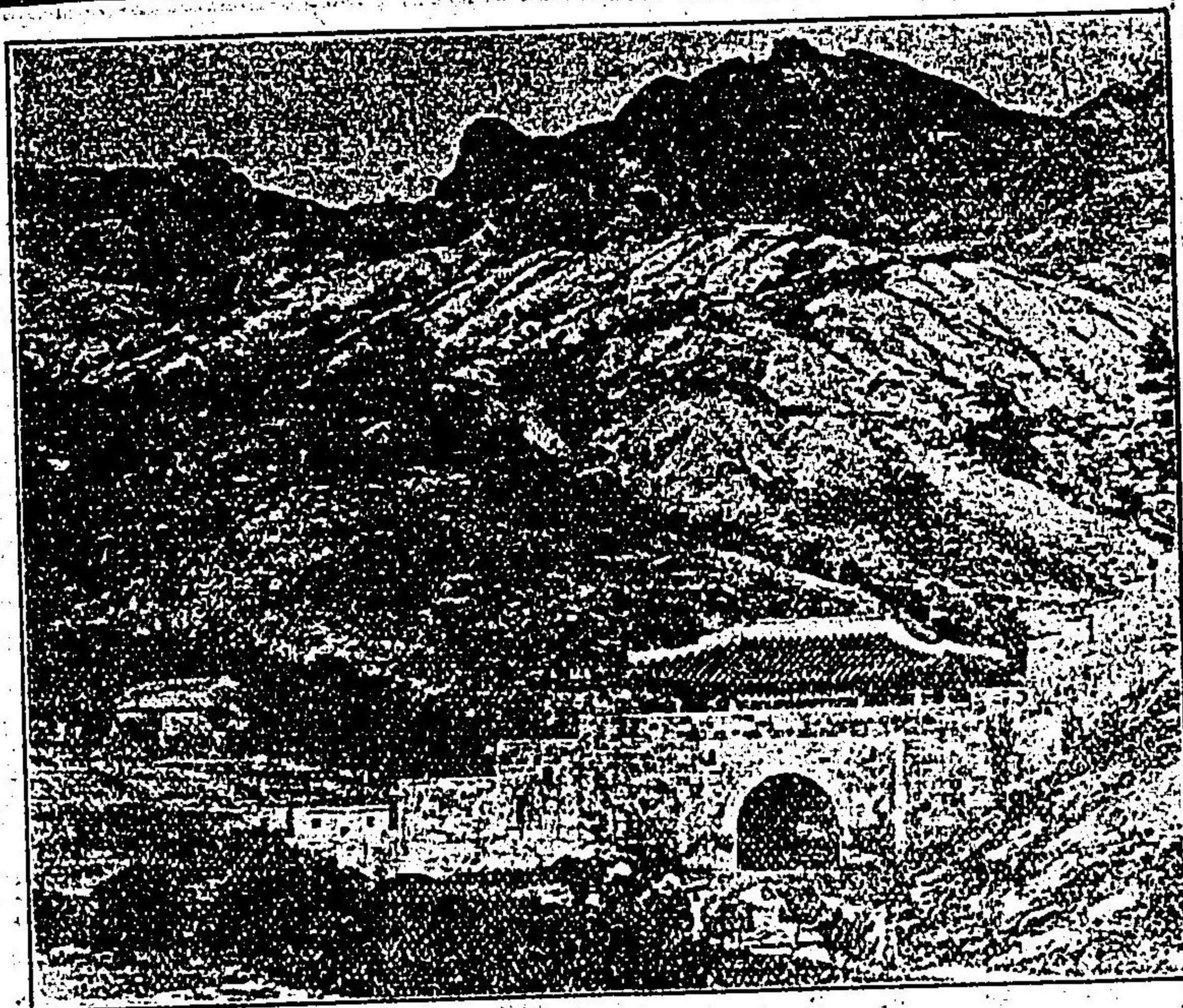
交通

通路の設備は至りて不完全にして交通上、極めて不便なり、八道の主要なる都會の間を連絡する王路の存するあるも修繕改築すること絶へてなく、行路の難き實に名狀すべからず、水路は陸上にありては洛東江、大同江等の如き航行し得べき大河なきにしもあらざれども、河道を改良し土砂

京城

を浚渫することなきを以て充分、其の功を奏する能はず、海路に就きても凡そ一千七百哩の海岸線あるに拘らず脆弱なる帆船と二三の小汽船とを有するに過ぎざれば、輸出輸入の貨物の運搬を始めとし主要なる沿海の航行は均しく外國船、特に日章旗船に依頼せざるべからず郵便は主要なる都港間に於ける信書の發着を取扱ひ電信線の架設は未だ各地の名邑を連絡するに至らざるも、京仁、京義、京釜、京元等の數線あり

京城(一九〇〇〇)は一名を漢陽と云ひ又セウルと稱す、韓國の王都なり、今を距る五百年前、李氏の立ちて王位に即くや移りて此に都す、當今は議政府を始めとし各部衙門等のあるありて此の國の行政機關又は文物風化の中心たり、漢江、西江の二水に挾まれ、三方に山脈を控へ、海岸を距ること



五里餘の處にあり、府の北西に宮闕あり、景福宮と稱す、其の外郭は一里餘にして東西南北各一門を設く、王城の周圍に市街あり、官衙、公署若しくは貴族の邸宅には稍見るべきものあるも、普通の家屋は極めて矮陋なり、市の周圍に城郭ありて八門を構ふ、而して崇禮門即南大門

仁川港

開城 平壤

の近傍に泥岷と稱する地あり、日本人の居留地にして人口は凡そ二千あり、京城を距る一里半、漢江に瀕する地に龍山あり、開市場とす、仁川港(六〇〇〇)即仁川府、濟物浦は明治十六年を以て開港せし處なるが小漁村は乍變じて繁華の小都會と成りたり、輸出の重要品は大小豆、米麥、皮、白人參、砂金等にして、輸入は綿布、毛布、雜貨等なりとす、日本居留地には四千有餘の本邦人居住し、商店を開き、倉庫を設けて盛に貿易に従事せり、開城(五、〇〇〇)は王城堡障の一たり、人參、油紙の産ありて市街は繁華なり、平壤(七、〇〇〇)は大同江に瀕し、大城山に據る要害の地なり、市街は繁華にして關西の大都會たり、近來開市場と成りしも未だ實際の取引は盛ならず、壬辰の役小西行長が祖承訓に勝ち李如松の爲に敗られし處なり、而して日清戦争の際には我が軍が敵軍を抱圍攻撃して有

義州	名の大勝利を得たる處なり。義州(一、〇〇〇〇)は鴨綠江に枕み
元山港	丘陵に據る海東の第一關たるに恥ぢず。元山港(一、〇〇〇〇)は
釜山港	開港場の一なり、通商港として新設せられは一千八百八十年なり我が居留地には一千四百有餘の本邦人あり。釜山港(一、〇〇〇〇)は我が對馬島を距ること僅に四十哩なり我が國と通商を開きしは明治七年にして一千八百八十年以來は一般の互市場と成りたり貿易は綿布類、銅、酒、其の他の雜貨を輸入して豆類、大麥、米、牛革を輸出す、日本居留地は絶影島に對し龍首、龍尾なる二山の麓にあり市街を東館と號す、人口四千五百あり、此地と長崎との間に海底電線あり。大邱(二、八〇〇〇)は百貨の集散地にして商業甚盛なり、毎年二回會市を開く、全州は魚鹽の利と舟楫の便とを併有せり、市街は繁榮にして全羅道第一の都會なるが簾を産するを以て名
大邱	
全州	

牙山 あり、此の地に李太祖の墳墓あり祖陵と稱す。牙山は明治二十七八年の役、我が軍が大勝を得たる處なり。濟州島は魚利多き地なり本邦人の往漁するもの多しと云ふ。

●清國

境域 清國は東アジアに於ける一大帝國にして北西及北は天山、阿爾泰、塞揚等の山脈并に黒龍江に依りてロシアのシベリアに接し、東は烏蘇里河、長白山脈、鴨綠江を挾みてロシアの沿海州及韓國に隣り、又黃海、東海に瀕す、南は南海を受け、東京、暹羅國、ビルマに接し、南西は比馬拉耶、喀喇崑崙の山脈、巴密爾高原等を隔て、イギリス領の印度に隣れり、南北は凡五千三百料ありて東西は凡五千二百料あり、面積は一千一百八萬餘方料に達すれば世界の諸國の中にてイギリス、

ロシアに次ける大國なり
清國は東に海洋を控ふるのみなれば邦土の廣大なるに
拘らず港灣は甚多からず

渤海 直隸灣 遼東灣 萊州灣

黃海 朝鮮灣(旅順口) 烟臺灣 榮城灣 膠州灣

東支那海 楊子江口 杭州灣 寧波灣

臺灣 溫州灣 福州灣

福建海峽 泉州灣 廈門灣

南支那海 三門灣 廣東灣 東京灣 北海港

海峽には直隸海峽老鐵山水道 廟列島海峽 福建海峽 海南海峽等あり

半島には遼東半島 山東半島 雷州半島等あり 地角には旅

順角 長山岬 楊子角等あり 嶋嶼には長山列島 廟列島 崇明島

舟山列島 廈門島 海南島等あり

海洋に接する部分が比較的にかからざるのみならず、海岸が概して屈曲出入に富まざるを以て、海岸線の發達は充分ならずして延長は凡そ三千五百料に過ぎざるべし

世界の屋棟と稱せらるる巴密爾高原の葱嶺、喀喇崑崙山脈より發出する數條の大山脈は開きたる扇の如く或は北東に行き或は東に向ひ又は南東に赴き以て此の廣大なる支那の國土を抱括せり、其の北東に行くものは天山山脈、阿爾泰山脈の一派にして中部に於けるものは崑崙山脈に屬し、南東に走れるものは比馬拉耶山脈なり

天山山脈

西部 由斯比爾山(五〇〇〇)
那喇特山
馬斯大山

阿爾泰山脈

北部 塞揚山脈 耳奇克達爾曼克山脈
南部 必拉克山(三二〇〇)

崑崙山脈

- 本脈
 - 南山山脈 葛西爾山(四二四〇)
 - 加蘭山脈 阿拉善山脈 巴克丁山(三五四〇)
 - 陰山山脈 恒山(五岳) 海喇喀山(四八〇〇)
 - 興安山脈 大興安山脈 小興安山脈
 - 長白山脈 遼東山脈 泰山(五岳)
 - 巴顏哈喇山脈 山東山脈
 - 岷山山脈
 - 秦嶺山脈 華山(五岳)
 - 伏牛山脈 嵩山(五岳)
 - 苗嶺山脈
 - 大庾山脈 衡山(五岳)
 - 仙霞山脈
- 北嶺
- 南嶺

河流

比馬拉耶山脈 西部 南他地威爾山 中部 達窪刺吉利山(八七一六) 葛利桑加爾(八八四〇) 東部 康珍單葛(八四八〇) 知馬刺利山(七九〇〇)

清國は土地廣大にして高巒秀峯に富めるを以て、長流巨川に乏しからず、特に降雨積雪の盛なる地方に水源を發する江河は多量の水を輸送するを以て灌漑の利と交通の便とを與ふるもの甚多し

- 北氷洋斜面
 - 伊犁河(上流) イルナシヤ河(上流)
 - イエニセイ河(上流) セレンガ河(上流)
 - 黑龍江 松花江 烏蘇里河 鴨綠江 樂河 熱河 北河 白河、牙河
 - 黄河 汾水、渭水 楊子江 雅龍江、岷江、嘉陵江、烏江、湘江、澧江、湘江 浙江
 - 閩江 珠江 西江、北江 瀾滄江 湄公河
 - 怒江 撒爾烏音 河の上流 龍川江 易刺控的 河の上流 藏布河 布刺馬布土 刺河の上流
- 太平洋斜面
- 印度洋斜面

サドレシ河(上流) 印度河(上流)

黒龍江

中央閉塞地 塔里木河(葉爾羌河) 和闐河 喀什噶爾河
黒龍江の源流に二派あり、其の一をインゴタ河と云ひ、其の二を敖嫩河と云ふ、此の二流の相合するや、什勒喀河と成り、額爾古納河を容れて始めて黒龍江と稱す、松花江、烏蘇里河等の水を合はせ、韃靼海峽に於て海に入る本流の長は凡そ四千四百軒あり、

黄河

黄河は青海蒙古の高地より發し、阿爾坦河と云ひ漢土に入りて始めて黄河と稱す、山地を流下し沙漠の地に行き大彎曲をなして平坦なる砂原に出で、水勢漸散漫し黃濁たる流水は沿岸の地に損害を蒙らしむること屢なりとす、本流の全長は凡そ四千二百軒なり、

揚子江

揚子江は世界有數の一大江にしてアジア洲第一の巨流

沼湖

たり、源流は木魯烏蘇と云ひ青海高原より發し漢土に入りて金沙江と稱し雅龍江を受けたる後は大江又は長江と稱す、山間の地を流れ峽江と唱ふるの實を呈するも岷河、嘉陵江、湘江等を容れて江身愈廣大と成り、江寧府を經過したる後は揚子江と云ふ、河口は崇明島の爲に二に分たるが、南口は廣濶にして巨船の航通に適す、本江は源委通じて五千一百軒に達せり、本江并に支流は灌漑の利を與ふるのみならず、航通の便を供すること恰、地中海の如き感あり、下流は宜昌に至るまで自由に汽船の行馳するを見る、殊に九江以下は四時共に大船巨舶の定期に上下するあり

清國は邦土の廣濶なるに拘らず、湖澤には大なるもの少なし、就中、稍著しきものを擧ぐれば次の如し

- 庫蘇克爾湖
- 呼倫湖
- 三角淀
- 洪澤湖
- 大湖
- 鄱陽湖
- 洞

庭湖 滇池 洱海 巴爾齊湖 庫々諾兒 羅布諾兒
鄯陽湖は周圍八十里長四十里濶六七里を有し湖口に依りて大江に注水せり二三の島嶼は湖上に屹立し樹木は翳鬱として繁茂す有名の勝地とす又漕運の便ありて交通上極めて肝要なる處とす

洞庭湖は清國第一の大湖にして長三十里濶二十里あり、湘江、沅江、其の他の數流を容れ一道の江流に依りて楊子江に通せり湖上に數個の小嶼あり殊に君山を著名なるものとす本湖は風色に富めるのみならず灌漑上頗る便益を與ふ
青海即庫々諾兒は海拔三千米突以上の高地にありて周圍は一百二十五里に達せり大通江、其の他の數派を容るるも出水口なきを以て鹹湖をなせり湖の周圍は高巒秀峯の蟠亘するありて風光極めて明媚なり

地勢

北、西、地方は清國全土の五分の三に當れるものなるが大高原をなして周圍には山脈を繞らせり比馬拉耶山脈の北面にありては平均四千米突以上の高臺なるが數個の階段をなして漸次に低下し戈壁の砂漠、蒙古の草原と成れば海拔は一千一百乃至九百米突なりとす、東部并に南東地方にありては中央の臺地より分派せる數多の並行山脈は高地より流れ來る諸水の域流、谷地を形成せり而して北支那は黃河の流域に當りて陝西、山西の山地を除けば其の他は低地若しくは臺地にして、黃土の蔽ふ所と成り、河流に乏しく通舟の便なく、灌漑の利少なく乾燥に失することあるも亦麥類を産するに適せり、南支那は楊子江の勢力を逞しうする地方なるが、山岳、溪谷多く平地少なくして、地貌は極めて錯綜せり、河流は奔水溪流より大河巨江に至るまで其の

氣候

數至りて夥しく、灌漑の利、交通の便甚多く殊に水田に富めるを以て世界屈指の産米地なり。

清國の外藩部并に漢土の黃河以北の地にありては冬季は寒威極めて強く夏季は炎熱烈しく、極寒極暑の差著しくして温度の變化も亦甚急激なり、春夏の候と雖、降雨は多からざるが冬季にありては降雪少からずして河水は凍結するを常とす、又風多く風力強き土地なるが殊に戈壁沙漠に於ては烈風屢起り沙塵を飛ばす其の勢極めて猛烈なり、而して大江并に南部河江の流域は熱帯に屬するを以て夏季には酷暑を覺ゆるも冬季は温暖にして冰雪に苦めらるゝをなし、春季は降雨多き季節なるも秋季は無上の好氣候たり、然れども立春立秋の頃に於て季候風が方向を變ずるの際には大風と稱する旋風の起ることあり。

天産

清國は土地廣大にして山岳多く、河流に富み、高原あり砂漠あり草原あり嚴寒の地あり、炎暑の土あり、是各種の天産を以て此地に現出せしめたる原因たり。

鑛物には銀、鐵、銅、石炭、陶土、石材等あり、特に水晶、翡翠石、蠟石、玉類等の産出あり、植物に就きては北部并に西部の地には松、杉の類多く、南部及東部には紫檀、黑檀、椰子、藤、沈香、丁香、龍眼、柑類、橄欖、甘蔗、芭蕉、蕃薯、鳳梨等あり、其の他、米、麥等の穀類には多量の産あり、動物は北部に熊、虎、豹、駱駝、騾、驢等あり、南部に猿、犀の類あり、西部に麝鹿、羚羊あり、其の他、牛、馬、水牛、山羊、綿羊等は中央又は北西の臺地に産せり、又鳥類は南部に多くして殊に鸚鵡、孔雀、鴛鴦等を以て顯著なりとす。

清國は土地の廣大なるのみならず、人口も亦極めて多く、其の數は實に三億六千萬と稱す、即地球總人口の五分の一

人口

なり、然れども支那帝國を組成する各部に就きて考ふれば、人口の配付に非常の不平均ありて或は稠密にして一方料に付きて二百十人を有するあり或は十方料に付き僅に六人を有するに過ぎざる部分あり、又戈壁沙漠若しくは西部の山地にありては殆ど無人の地たるが如き處あり

土地	面積	人口	一平方料に付人口数
清國全部	一、一〇八、二一〇〇	三、五七二、五〇〇〇	三二
漢土十八省	四〇一、〇一〇〇	三、四六二、五〇〇〇	八三
1 直隸	三〇〇,〇〇〇	一九三五〇,〇〇〇	六四
2 山東	一四五,〇〇〇	二五〇〇,〇〇〇	一七二
3 山西	二二二,〇〇〇	一、一七〇,〇〇〇	五四
4 河南	一七六,〇〇〇	一、三二〇,〇〇〇	一〇〇
5 江蘇	一〇〇,〇〇〇	二、一〇〇,〇〇〇	二一〇
6 安徽	一四〇,〇〇〇	二、二〇〇,〇〇〇	一四八

7 江西	一八〇,〇〇〇	二、四六〇,〇〇〇	一三七
8 福建	一一〇,〇〇〇	二、一五〇,〇〇〇	一七〇
9 浙江	九五〇,〇〇〇	一、一八〇,〇〇〇	一二五
10 湖北	一八五,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	一六二
11 湖南	二二六,〇〇〇	二、二〇〇,〇〇〇	九七
21 陝西	一九五,〇〇〇	八三〇,〇〇〇	四二
31 甘肅	三二五,〇〇〇	九三〇,〇〇〇	一八
14 四川	五六六,〇〇〇	四五〇〇,〇〇〇	八〇
15 廣東	二五九,一〇〇	二、九七〇,〇〇〇	一一三
61 廣西	二〇〇,〇〇〇	五、二〇〇,〇〇〇	二六
17 雲南	三八〇,〇〇〇	一、二〇〇,〇〇〇	三一
18 貴州	一七四,〇〇〇	七七〇,〇〇〇	四四
滿洲東三省	九四二,〇〇〇	七五〇,〇〇〇	八
1 奉天	三二五,〇〇〇	五、二〇〇,〇〇〇	二四
2 吉林	一九五,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	一〇

種族

黑龍江	五三二〇〇〇	三〇〇〇〇〇	一〇六
蒙古	三五四三〇〇〇	二〇〇〇〇〇〇	一〇六
新疆	一四二六〇〇〇	一〇〇〇〇〇〇	〇七
西藏	二〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇	一

清國人は概蒙古人種に屬せり、而して之を大別すれば五族となすを得べし。漢族は智力に富み着實にして堅忍なる儉嗇にして勤勉なる實に天下無比なれども有爲高尙なる理想に乏しきが如し。此の種族は十八省、滿洲の南部并に内蒙古の一部に居住して其の數は三億五千萬に近し。通古斯族は滿洲人の外尙若干の民族を包含し、漁業と獵獸とに従事するの外殆他の生業を營まず。此の種の人民は漢土に駐在するものあるも概して東三省に居住す、其の數二百萬餘あり。蒙古族は游牧を事とす、居住の地は區域極めて廣大な

宗

言語

教育

れども乾燥に失する高原にあらざれば山間に閉塞せらるる高地なれば總數は四百萬に達せざるべし。東干族は吐蕃族より歸化せしものなりと稱す、漢人と交り蒙古人に接するを以て稍之に類似せる點なきに似あり、其の數は甚多からざるを察し、新疆、甘肅地方より滿洲の中部に散居せり。苗族は漢人の所謂化外の蠻民にむき、其の性極めて慄悍なり。西部諸省に屬する山間に棲居せり。人口の多數なるは國土の廣大なるを以て言語は著き異同を生じ、遂に主要なる土音のみを擧ぐるも五十餘種あるを致せり。官話は帝國內一般に通する普通語なれども官吏文人、富裕者の如き中等以上に位する人士にあらざれば此の種の言語を知らざるなり。漢人は古來文字を好み學問に熱中せし人民なるが保守

的思想は一變じて往古を追慕して止まざるの念慮を成り
 毫も進歩發達を意とせず教育の如きも時世に應ずること
 なく亦極めて不振なり、普通の教育としては僅に私立の塾
 舎に於て讀書習字を修得せしむるのみにして中等以上の
 教育を受くるは仕官を求むる徒或は富豪者の子弟に限れ
 り。滿洲人は漢人の風を習ひて文書を修むるも稍拙劣なる
 が如し。蒙古人は古來游牧のみを事とするを以て學術を修
 め智識を磨き又は子弟を教育する等の念に乏し。儒道は各種の宗教中にて最勢力を有し中等以上の人士
 は概之れを尊信するが如し。大成門は儒道の變派にして各
 地行はれるも旺盛を極むるは南部の地方なりとす。道教
 は老子の教なるが之を奉ずるの徒も亦少からず。佛教は往
 古は隆盛にして多數の信徒を有せしも現時にありては頗

宗教

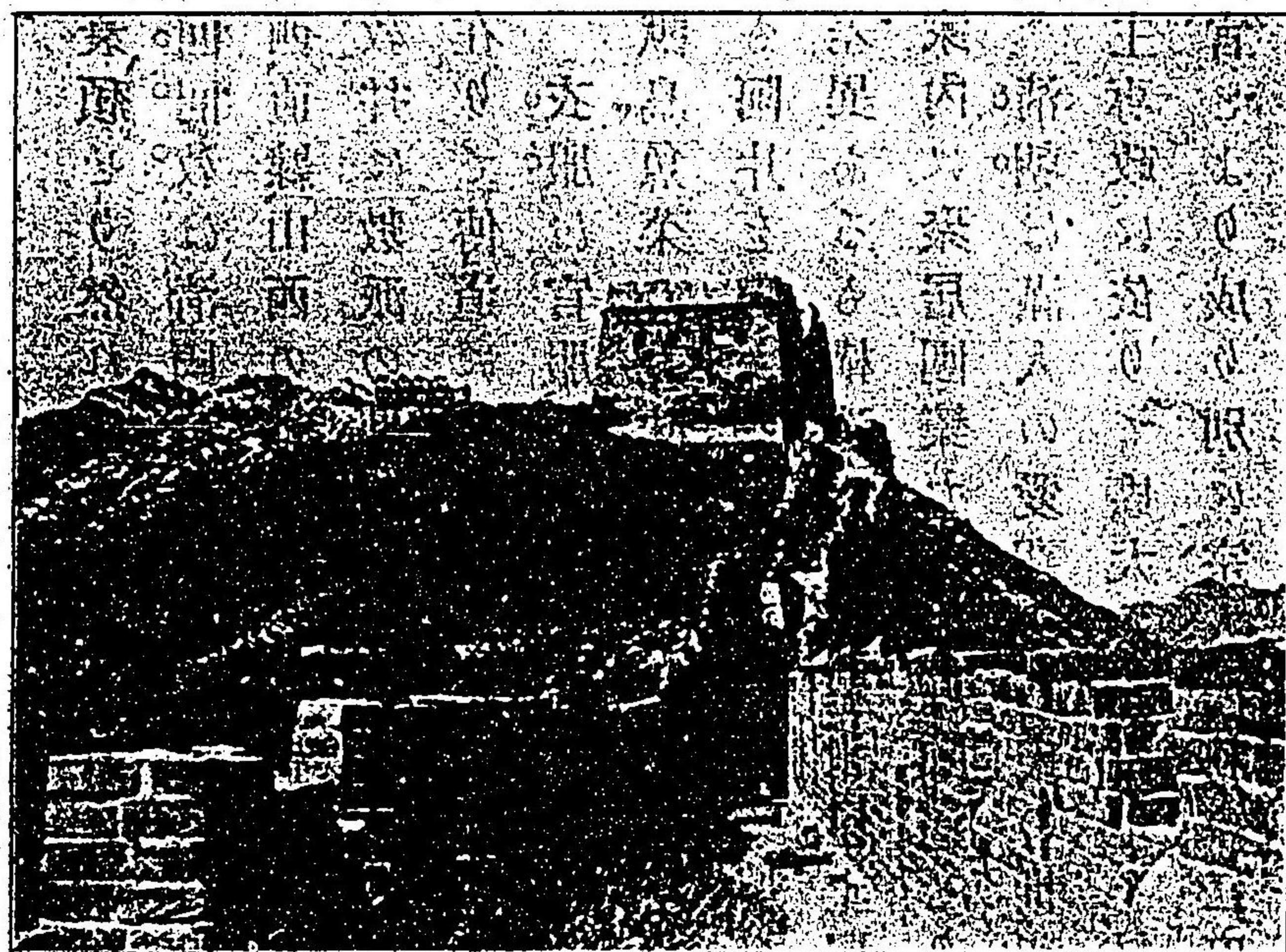
衰頽せり然れども白蓮教并に喇嘛教は稍有力なるが如し
 回教は清國の西部及北部に行はるるも主として甘肅陝
 西直隸山西の地方を以て盛なりとす。基督教は天主教希臘
 教并に數派の耶穌教に分るるものなるが宣教師は各地に
 在りて傳道に従事するを以て漸次隆昌に赴けり

風俗

衣服は官服便服等總べて滿制を用ふ。飲食は頗發達して
 獸鳥魚菜の美味奇品を用ひ調理は極めて精妙なり。然れど
 も阿片を喫するの惡習あり。家屋は地方と貧富とに依りて
 差異あるも構造には瓦屋木屋土屋の三種ありて親族の一
 家内に聚居團欒たるには頗適せり

政体

清朝は滿人の愛親覺羅氏の世祖順治帝の創立に係り君
 主專政に依りて廣大なる土地を統治せり。政府は京官と外
 官とより成り別に宗人内務の二府を置く。京官には軍國の



(城 長 里 萬)

機務を參決する軍
機處あり國政を贊
理する内閣あり國
政を分掌する吏戶
禮兵刑工の六部衙
門あり其他都察
院、通政使司、理藩院、
翰林院等ありて外
官には總督、巡撫を
始めとし其他漕
運、總督、河道、總督、鹽
政、布政使、按察使等
あり又順天、奉天の

二府に府尹を置き各省の府、州、縣に知府、知州、知縣を置けり
而して新設の官衙には總理衙門あり南洋北洋の通商衙門
あり、各開港場に於ける道臺あり
行政上の區畫としては漢土を十八省に分ち、一省若しくは
數省に就きて總督を置き各省に巡撫を置けり

漢 八			總 督
閩	兩	直	所在地衙門
浙	江	隸	保定
福	江	天津(夏時)	天津(夏時)
州	寧	定	定
浙	江	直	省 名
福	安	隸	所巡撫衙門
江	蘇	蘇	
建	徽	蘇	
福	安	蘇	
抗	南	蘇	
州	昌	蘇	
州	獲	蘇	
州	洲	蘇	

省		八		十		土	
雲	滇	陝	甘	湖	廣	湖	南
雲	廣	甘	寧	武			昌
雲	廣	陝	甘	湖	湖	湖	湖
雲	廣	陝	甘	湖	湖	湖	湖
雲	廣	陝	甘	湖	湖	湖	湖
雲	廣	陝	甘	湖	湖	湖	湖
雲	廣	陝	甘	湖	湖	湖	湖
雲	廣	陝	甘	湖	湖	湖	湖
雲	廣	陝	甘	湖	湖	湖	湖
雲	廣	陝	甘	湖	湖	湖	湖

滿洲即東三省は奉天吉林黑龍江の三省より成る、各省に

兵備

將軍を置き奉天將軍をして之を總轄せしむ新疆省は塔爾巴哈臺伊犁喀什噶爾の三部より成りて巡撫の管轄に屬す蒙古并に西藏は理藩院の管理する所なり陸軍は八旗兵綠旗兵の二種あり八旗兵は滿人蒙古人漢人等にして清朝創立の際に切勞ありし者の子孫より成りて滿洲直隸省蒙古新疆等の各要所に駐在せり綠旗兵は漢人より成りて漢土の各地に駐屯せり而して直隸江蘇の二省には特に洋式の練軍を置き新式の銃砲を備へて防守を嚴にせり其の外東三省に駐防八旗兵あり滿洲に二百五十五旗の兵あり新疆省並に西藏に兵勇あり然れども實戰に堪ゆるものは三十萬を超へざるべし而して海軍は五十四隻四萬噸の兵艦を有するに過ぎず

財政

清國は邦土の廣大なると人口の饒多なるとに拘らず税

世業

源は至りて乏しく歳入は比較的僅少なり其の額は勿論
確言し難きる海關銀にて凡そ千九百萬兩(我が貨銀一億二千萬圓)に過
ぎずと云ふ

生業

清國は三千餘年を経過したる舊邦にして夙に開明の域
に進み百般の業務に就きては大に見るべきものありしと
雖徒に往昔の遺法を固守して更に新意改良を加ふること
を務めざりしを以て遂に今日の如き不振を來たせり然れ
ども國內には各處に肥地沃土あり住民は饒多に以て能勤
むるの風を有せり是此の國に於て往古の盛況を目撃し得
ざる尚多少の留意を促すものあり牧業は重要なるも
のハナリ豚の飼養は至る所に行はれ馬には口馬川馬の
四種あり又滿洲蒙古にも良種あり羊には四種あり綿羊山
羊は蒙古と漢土の北部とに産し中羊羚羊は蒙古に産す

牧業

林業

牛には黄牛水牛の二種ありて黄牛は蒙古と北支那とに産
し水牛は漢土の南部に産せり其の他陝西甘肅直隸河南四
川に驢馬の産あり北支那に騾馬の産あり又蒙古は駱駝を
産す家禽の飼養も盛ならざるに非ざるが就中鶏は各地に
産せり林業は濫伐の餘弊を受けて大に衰頽せり森林の多
き地方は廣西湖南を始めとし北西の諸省蒙古の東部滿洲
の北部にして松柏杉柳梧桐梔梨楠柚等の材木を興へ又樟
腦桂皮等の藥品を興ふ鑛業は未盛なるに至らざるも頗有
望の業なりとす金は雲南滿洲等に産し銀は雲南兩廣四川
等に産し鐵は山西福建廣東雲南等に多少の産あり其の他
に銅鉛錫水銀等の産あるも其の量甚多からざるが如し而
して石炭は各省に産するも目下採掘せらるるは開平唐山
林西等の炭坑なりとす農業は清國が最得意とする所なれ

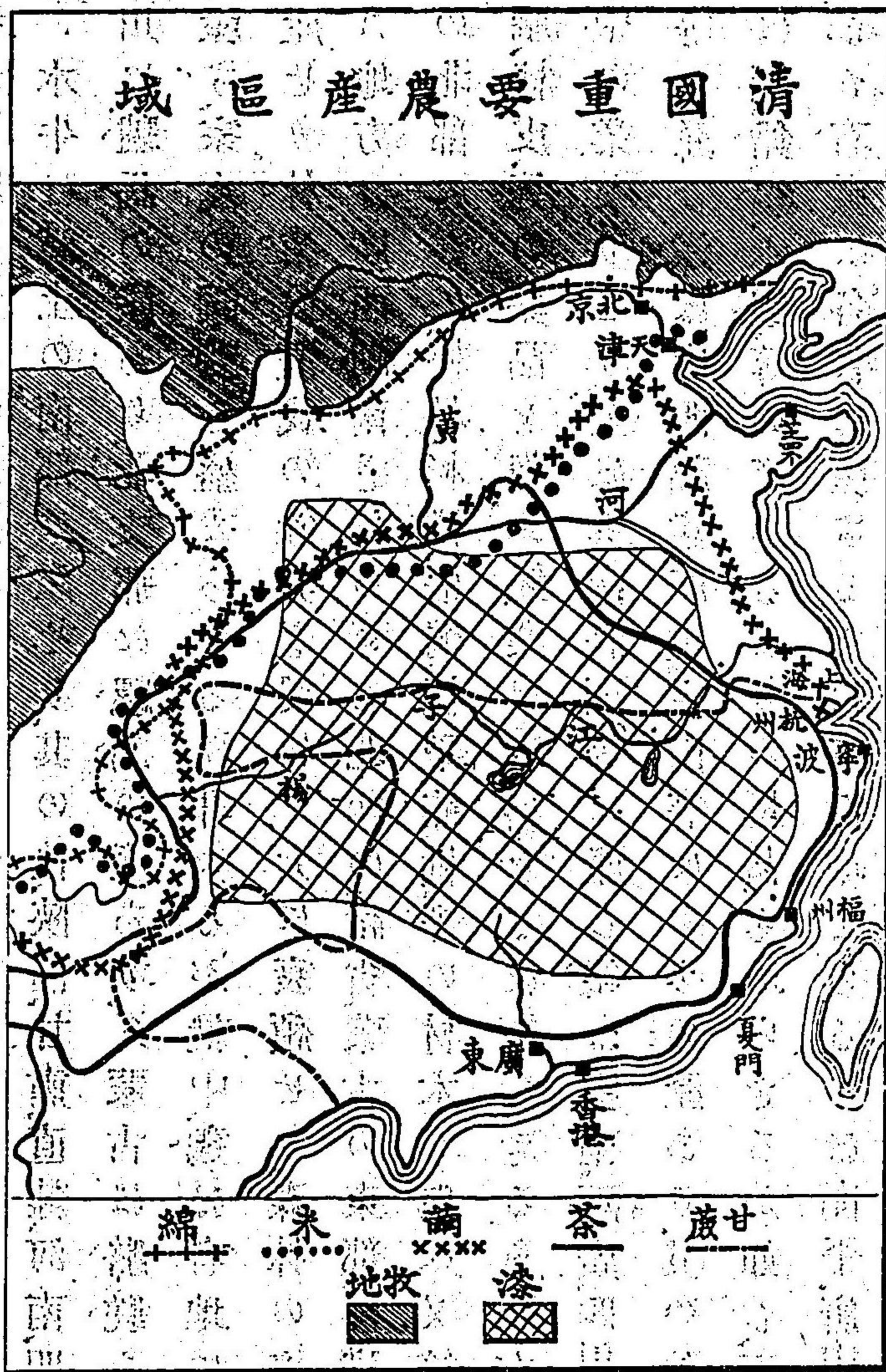
鑛業

農業

工

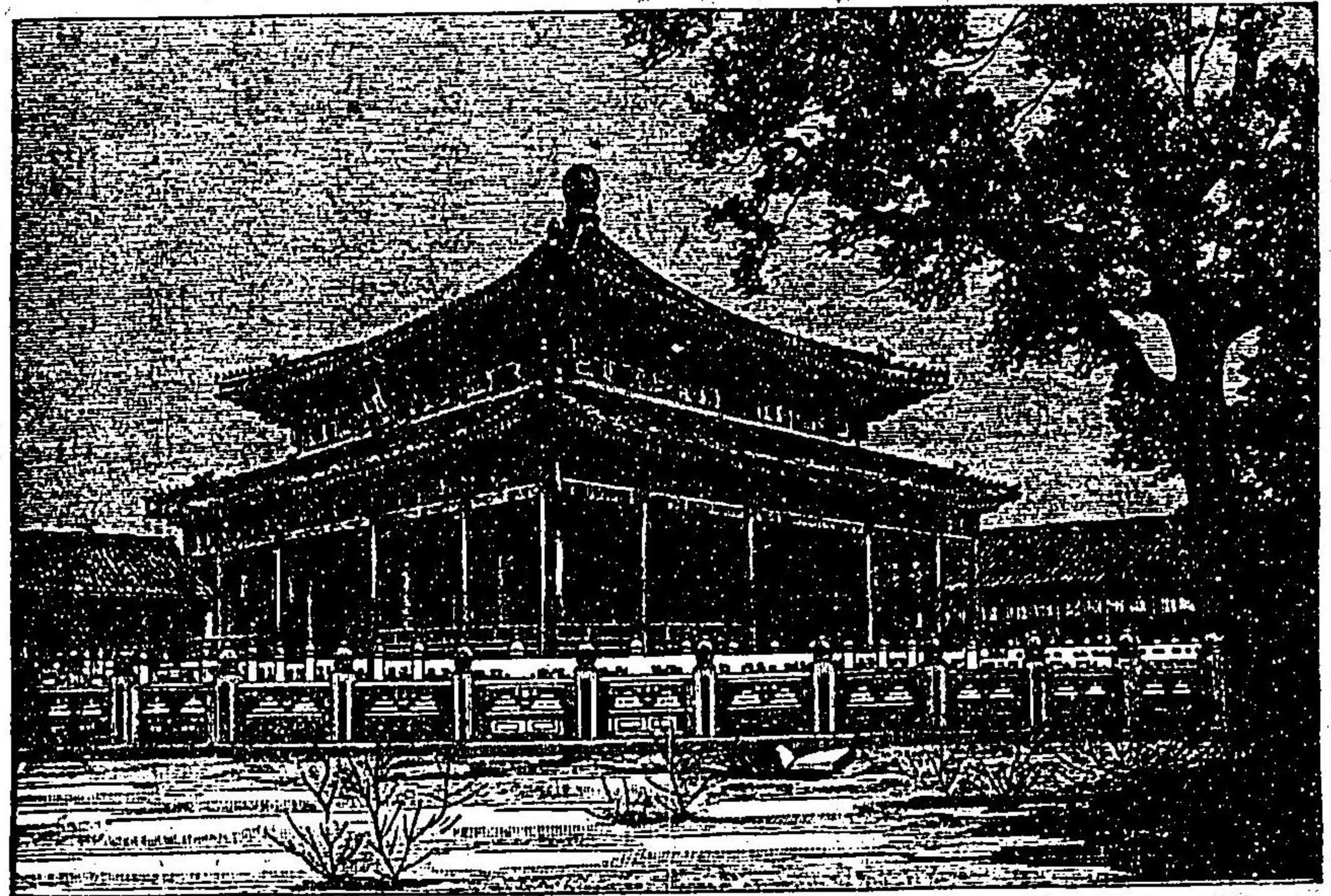
藝

とも培養に宜しきを得ざるもの多く農具も亦甚便ならず
 るが如し米は南部諸省の水田に産し麥は北部各省の乾田
 に生ず高粱は四川の名産にして豆類は滿洲の奉天省を最
 とす棉花は中部の各地に産するも江蘇湖北の地方は良種
 を與ふ麻は滿洲兩湖四川地方より出づ蠶絲は各地に多少
 の産あるも江蘇浙江廣東四川湖北は佳種を産し山東湖南
 のもの之に次ぐ茶は漢土の南部と東部に産す就中浙江
 安徽福建の地方を最盛なりとす砂糖は兩廣江西福建等の
 地方に産す人參は滿洲地方に産す鴉片は身命を蠱害する
 の毒烟たるにも拘らず近來は各地に其の産を見るに至れ
 り楮は浙江貴州四川等に産し又果樹には橙柏甘蕉龍眼棗
 梨等ありて廣東福建等に産す工藝は甚盛なるにあらざる
 も又多少の製作品は各地に産す特に江蘇浙江廣東の地方



餘里に達すと云ふ
 海路は漢土の沿岸の要港を連絡するに止り汽船の數は
 多からず然れども古式の構造に係る蓬船は其の數極めて
 多くして各地の間を往來せり驛站は兵部の所轄にして專
 官信の遞送を司れり各省要衝の地に局を設く其の數は二
 千四十箇所あり此の他に私設の信局飛脚票號あり又各開
 港場には工部局郵便あり十八省の各處に漕運局なるもの
 ありて各種の公用貨物を輸送するを司る電信は中央局を
 上海に設け北には東三省線蘭州線等あり西には成都線雲
 南線等あり南には廣東線東京線等あり
 京師順天府即北京は皇城の所在地にして清國の帝都た
 り人口は五十萬に過ぎずと云ひ或は百六十五萬ありと稱
 するも確數を知る能はず帝居を大内或は紫禁城と稱す幾

北 京



(廟 聖)

多の宮殿あり繞らす
 に城壁を以てし四面
 に各一門を設く大内
 の外を皇城と云ふ大
 小六門を設く城内に
 大廟あり社稷壇あり
 先蠶壇あり皇城を包
 むを内城とす九門の
 設けあり内には數多
 の官衙公署あり訂盟
 諸國の公使館あり又
 は旗兵の駐在するあ
 り内城の南に外城あ

天津 明湖あり共に名勝の地として稱せらる天津府(九五、〇〇〇)は北清最要の通商港とす、百貨輻輳の地にして極めて殷賑なり、然れども冬季は氷結して航路の絶ゆること三箇月に及ぶ、其の紫竹林は外人の居留地にして又我が領事館の所在地なり、此の港は主として荳餅油、敷物等を輸出す、張家口(二六、〇〇〇)は陸路通商の地なり、ロシアに向ひて磚茶を輸出しシベリアに産する各種の生毛を輸入す、江寧府(五〇、〇〇〇)は一に南京と云ふ吳の建業にして明の應天府なるが文華風流清國第一と稱せる、蘇州府(五〇、〇〇〇)は絹布を産す、新開四港の一なり、上海(四六、〇〇〇)は蘇州江と黃浦江との相會する所にあり、舊は一小縣地に過ぎざりしが通商の地と成

鎮江 月旺盛に赴けり、鎮江府(二四、〇〇〇)は大江の南岸にあり貿易港の一たり、絹布を製出す、福州府(六五、〇〇〇)は閩江に瀕せる河港にして通商に従事し、茶、紙、木材を輸出す、廈門(九、六〇〇)は船舶の停泊に便なり、貿易港の一にして茶、砂糖、紙等を輸出す、杭州府(七〇、〇〇〇)は新開四港の一たり、寧波府(二五、五〇〇)は甬江に臨む河港にして茶、棉花、生糸等を輸出す、漢口(八〇、〇〇〇)は漢水と長江との相會する處にありて江口を距ること五百八哩なり、交通上の要衝に當り、清國內地貿易の一大中心にして盛に製茶を輸出せり、重慶府(三〇、〇〇〇)は嘉陵江と大江との相會する所にあり、上海より航行一千五

廣東

百哩にして此の地に達す、農産饒多にして庶民殷富なる地方の中心なれば工業も亦多少發達せざるが如し且又水運の便あるを以て百貨の集散に適するが故に通商碼頭としては頗る有望の地とす、廣州府(二五〇〇〇〇)は一に廣東と稱す清國最舊の開港場なれば商業は勿論、各種の工藝も盛んにて極めて繁昌の地なり、實に清國第一の大都會たるに耻ぢず、海岸を距ること三十五哩なるも東江、北江の二水の貫流するありて大船巨舶も容易に出入するを得るが故に百貨の集散も頗る盛なり而して此港より輸出する物品の主要なるものは生糸、絹布、砂糖、蘭蓆、陶器、蜜餞等なりとす、太沽に砲臺あり、平に炭山あり、芝罘(三五〇〇)は一に烟臺と稱す貿易港の一にして風景の絶勝なると船舶を碇繋するに便なる良港を有するとを以て名あり、蘭綢、草帽紐を産す、蕪湖(八、〇〇〇)は大江に瀕する河港にして通

商埠頭の一なり、盛に米を輸出す、九江(五、五〇〇)は揚子江の南岸に於ける河港なり、盛に茶葉、陶器を輸出す、宜昌(三、四〇〇)は河港の一にして貿易に従事す、沙市(七、〇〇〇)は新開四港の一なり、汕頭(三、五〇〇)は通商碼頭の一にして砂糖、錫器、海産物を輸出せり、北海(二、〇〇〇)は寂寥たる一碼頭に過ぎざるも亦有望の地ならざるにあらず、瓊州(四、〇〇〇)は海南嶋にあり、其の附庸港を港口と云ふ、通商碼頭の一なり、龍州(二、〇〇〇)は東京に接する邊陲の要區なり、陸路貿易の地として撰定せられたるも未だ盛なるに至らず、蒙自(二、二〇〇)は盤江の上流に瀕する河港にして陸路貿易の地なり

奉天府(二八、〇〇〇)は一に盛京と云ふ、清朝の舊都にして滿洲第一の都會なり、街衢は稍清潔にして獸皮、穀類等を賣買す、繁華の地とす、營口(六、〇〇〇)は俗に牛莊と稱す、通商碼頭の一にして商業繁榮し、頗る有望の地とす、吉林府(八、〇〇〇)は交通上の要區にして商業繁昌せり、齊々喀爾(五、〇〇〇)は嫩江を控へ道路は四方に通ず、百貨輻湊して商業盛なり

金州(三、〇〇〇)は碼頭を大連灣に控へ商業極盛なり、花園口は明治二十七八年の役、我が軍の上陸せし地なり、岫巖(三、〇〇〇)は大理石を産す、地方の名區たり、蓋平は日清兩軍激戦の地なり、海城は我が軍が數度の勝戦を爲せし處なり、田庄臺は我が軍が大捷を得たる所なり、興寧は清朝創業の地なり、錦州(五、〇〇〇)は交通上の要區たり、繁華の地とす、遼陽(三、〇〇〇)四達の地にし、て交通上の要衝たり、琿春城は圖門江の左岸にあり、朝鮮とに對する邊防の地なり、三姓は松花江と珲爾哈河との相合ふ處にあり、拉林(五、〇〇〇)は屈指の市場なり

庫買
倫城

濟買城は清國とロシアとの界にある陸路貿易場たり、庫倫(三、〇〇〇)は蒙古の最大都會なり、交通の要衝に當り、陸路貿易の地にして商業旺盛なり

喀什噶爾

喀什噶爾(五、〇〇〇)は海拔一千三百八十三米突の地にあり

葉爾羌

葉爾羌(六、〇〇〇)は海拔一千三百三十六米突の地にあり、數多の回教寺院を有せり

拉薩

拉薩(三、〇〇〇)は海拔三千五百餘米突の高地にあり、達來喇嘛の居住地にして市街は殆ど宮殿と寺院とを以て充たさる

清國は九十九年間の期限を以て膠州灣をドイツに貸與し、二十五ヶ年を限り、大連灣、旅順口をロシアに、威海衛をイギリスに貸與せり

●香港

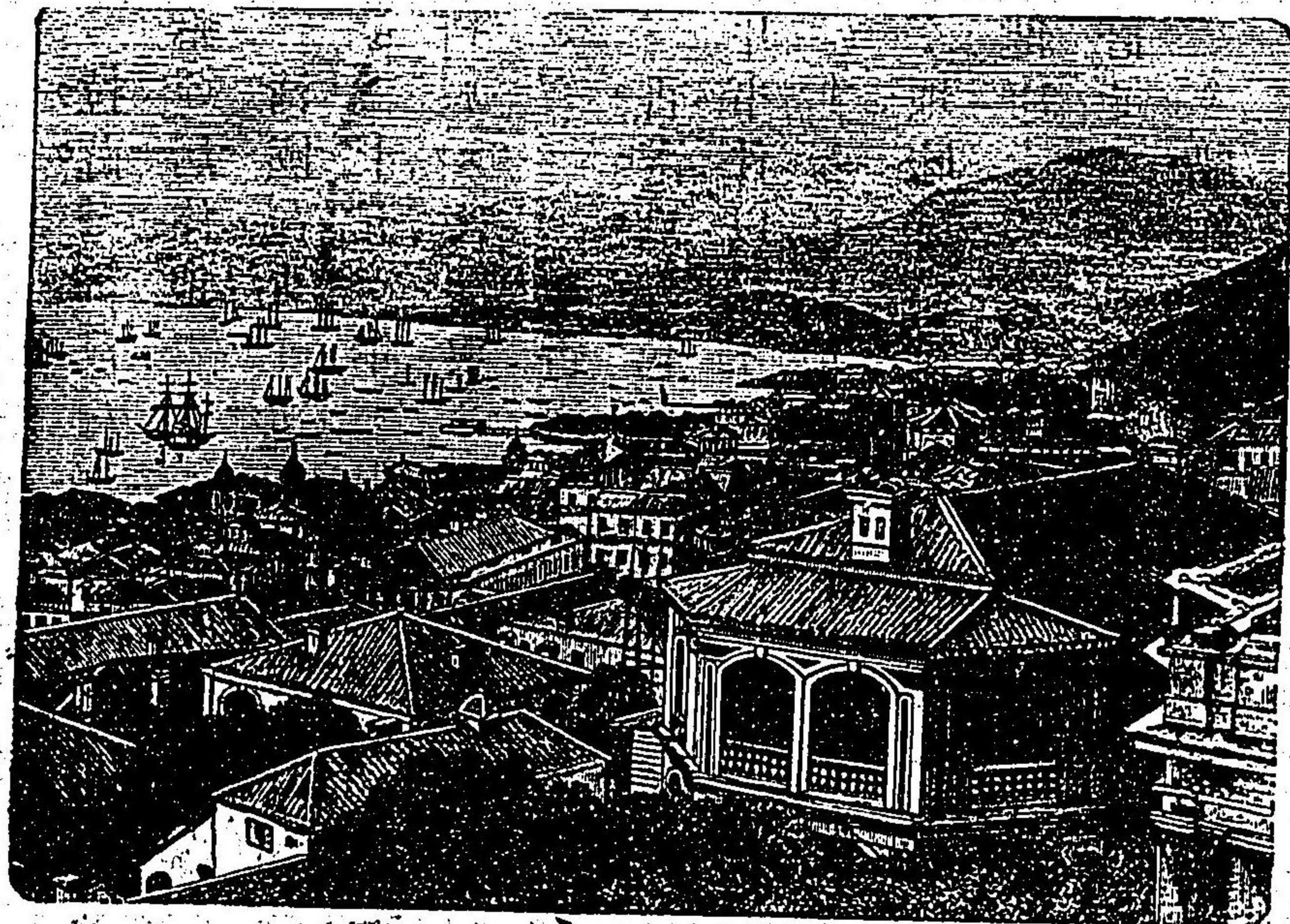
香港

香港島は舊清國の領土たりしが、一千八百四十二年の鴉片事件以後イギリスの屬地と成れり、面積は對岸の地を合はすも七十九方呎に過ぎず、島内丘陵多く平坦の地に乏しく、地味は礫確にして樹木は甚少なり、氣候は温暖なるも亦健康を害ふに至らず、ピクトリア市を建設して自由貿易を許せしより、爾來長足の進歩を爲し、人口は廿四萬五千に達せり、船舶の出入(十餘萬噸)頻繁にして百貨は盛に輻湊す

市街は熱鬧を極む、實に東洋屈指の貿易港たり、此の地は支那海艦隊の根據地なれば三千四百餘人の陸兵を置きて防備を嚴にせり、而して知事は普通の行政を司れり

◎澳門

澳門、瑪港は十二方疇の一小島にして七萬八千の人口を有するものなるが、ホルトガルに屬せり、



(香港)

南部

◎印度支那

印度支那は南アジアの一大半島なるが卵形部と狹長部とより成れり、北は支那と印度とに接するも東と南東とに南支那海を控へ西と南西とはベンガル灣、印度洋に瀕せり、南支那海即南海は多少陸地内に侵入して東京灣、暹羅灣、等を爲すも印度洋はベンガル灣、マルタバン灣を爲すに過ぎずして此等の二海を連絡するはマラッカ海峽なり而して海岸線の延長六千軒に達せり

交趾山脈は紅河を始めとし、南支那海沿岸の諸流と眉公河との分水線たり、カオドレンレック、其の他、二三の山彙は眉公河と溟南河との流域を分てり、タチンギイ山脈は南走してマラッカ半島の骨髓と成り、シンジョマ山脈はサルエン河とい

河 流

ラワヂ河との流域を分ちて、海拔は三千二百米突に達し南走してマラッカ半島に入る、アラカンヨマ山脈は最高處に於て二千二百米突に達しアラカン海岸の細流とイラワヂ河との分水線を爲しチgren岬に至りて海に没し再顯はれてアングマンニコバルの二列島を爲せり

ソンコイ河即紅河は水源を雲南地方に發し數多の支流を容れたる後、ソングタイに於て數派に分れ、一の三角洲を爲して海に注ぐ、眉公江は本半島第一の巨流にして水源を圖伯特に發し上流を瀾滄江と稱す、中流にありては激湍奔流の存するが爲に航行し難きも、コン瀑布より河口までは佳良の航路たり、滇南河はンピン河を容れ、暹羅を貫流し盤谷府を経て海に注ぐ、サルエン河は源を西藏に發し南走してマサルメイン附近に於て海に入るイラワヂ河は源を西藏

氣 候

天 産

に發しプロムに至りて二派に分れ再數多の分派を生じ一大三角州を抱きて海に入る

氣候は熱帶的なるが季候風の方向に従ひて濕候、乾候の二季に分かる、而して風候を變ずるの際は温度の甚しく上昇するを覺ゆ、要するに本半島は概、高温を呈するも、寒暑の差は南部にありては少なく、北部にありては稍著し内部にありては氣温稍低くして屢五六度の低温を觀ることあり雨量は多きも配布は一様ならず西部は尤多量の雨水を受けアラカン地方は三米突なるもアラカンヨマの西斜面は六米突以上を受ることあり、而して其の東斜面は一米突半に過ぎず又マラッカ半島の西岸は雨量多くプロピナン島は八米突の降雨を觀ること稀ならず

植物は薰木、紫檀、黑檀、ナーク、アカシアの類に富み、動物は

住民

象、豹、虎、野牛、等を以て最著しきものと、鑛物には鐵、鉛、銅、錫、銀、金、石炭、石油、玉類、等あり

印度支那の住民は數多の種族より成れるも之を五群に大別するを得べし、第一群は安南人、スアイス人(暹羅人、老)、等より成りて元來支那種族なるも多少の變差を生じ、緬甸人殊にアラカン人は著しく印度種族の混濬を受けたり、第二群はシメル人即東埔寨人にして甚しく印度的感化を受けたり、第三群は蕃民にして交趾にありてはモイ、ミ、オンと云ひ、緬甸にありてはカキエンと云ふ、第四群はオランダ種族にしてマライ半島の蕃民なり、第五群をマライ人とす、此の外支那人は本半島に來住して東京、安南、交趾、暹羅、シンガポ、ール、等の各市街地に定居せり

● フランス領

境域

住民

行政

生業

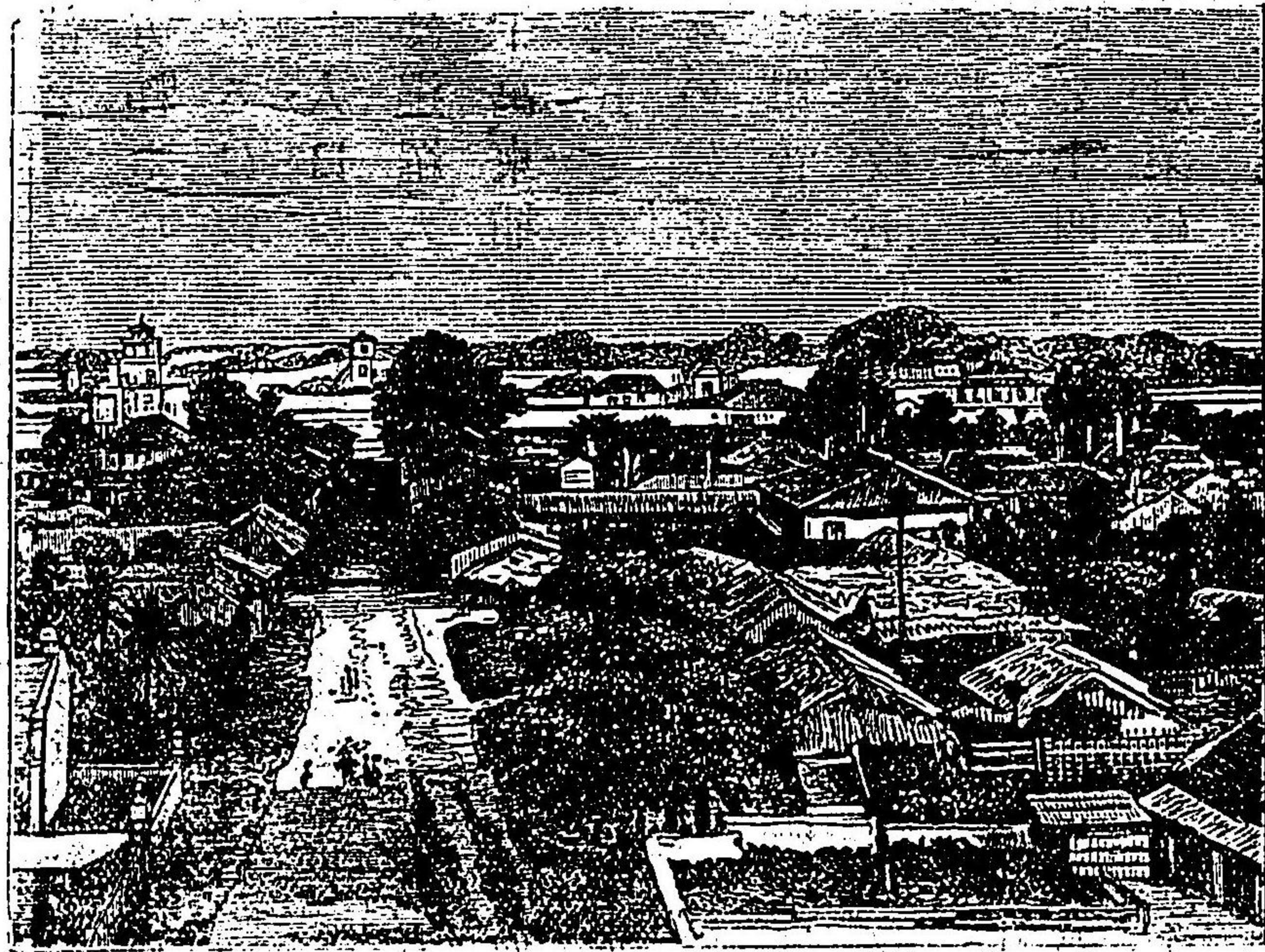
フランス領印度支那は印度支那半島の東部にありてS字形を有し凡九十萬方呎の地積を有せり

人口は二千四百五十萬なるが多數は支那種族に屬す、中流以上の人士には孔孟の教を尊信するもの多く普通の人民中には佛教を奉ずるもの少なからず而して七十萬の天主教信者は各開市場の附近に散在せり

本領地は東京、安南、交趾、東埔寨の四部より成りて共に印度支那總督の配下にあり、總督は交趾支那の柴棍に居りて本國殖民省の監督と印度支那高等會議の輔佐とに依りて全領地の行政を司り、兵備は陸軍に歩兵三聯隊、安南兵一聯隊、東京兵四聯隊、其他數大隊の砲工兵あり、又別に憲兵の一隊を置く、海軍は絶東艦隊の兼管に屬す

農業は稍盛にして、米、砂糖を産じ、牧業は牛類を養ひ、漁業

順 化 柴 棍 南 旺 境 域



順化(三〇〇〇〇)は安南の王都とする所なり、柴棍(二〇〇〇〇)はフランス領印度支那の首府にしてドンナイ河に瀕し貿易港の一なり、南旺(三〇〇〇〇)は東埔寨の王都とする所なり

暹羅國
暹羅國即シヤムは印度支那半島中唯一の獨立國にしてサイ

河 内 交 通

は雜魚を捕ふ、林業は木材を給す、工藝は極めて不振なるも團扇、漆器、彫刻物、家具等の工藝品を供呈せざるにあらす、貿易は米、魚類、石炭等を輸出し、織布、鐵器、鴉片、酒、茶等を輸入するが漸次に發達するもの如し

部名	輸出入	輸出入	全計
東 京	三八五〇六二八五	二二二二二〇九四	五〇八三九三七九
安 南	三三八〇六八二	二二二二二〇九四	六二五九二九二
交趾支那	五五八二八二九〇	五五八二八二九〇	一一一六五五八〇
東 埔 寨	五五八二八二九〇	五五八二八二九〇	一一一六五五八〇

鐵道は七十杼ありて柴棍とミトトとの間を連絡せり、船舶の出入は百五十萬噸なるが漸次に旺盛に趣き郵便は百四十局ありて電信線は二千五百杼に達せり、河内(八〇〇〇〇)は紅河に瀕し要衝の地にあり、高等駐在官の居る所なり、海防はサイボンの河口に於ける貿易港なり、

民 住
治 政
業

部とマライ半島の一部とより成れり、面積は六十三萬三千方呎あれども國土の大半は荒蕪の地にして稍、拓殖せられたるは溟南河の沿岸に限れり

人口は五百萬と稱すれども之を種族に依りて區分すれば暹羅人二百萬、支那人百三十萬、老樵人七十萬、マライ人五十萬、柬埔寨人三十萬にして自餘の住民は緬甸人と掌部の蕃民とに少數のヨーロッパ人なり而して支那人の來住するものは毎歲二三萬に達すと云ふ、暹羅人の言語は共に單音にして甚相似たり、又住民は概して佛教を奉せり

專政王國にして内閣は外務、内務、大藏、司法、工務、教育、農商の諸省より成り、別に樞密院、參事院を設く、兵備は三千の陸兵と十四隻の砲艦とを有するに過ぎず

農業は米を産し、林業は「チーク」を生ず、漁業は稍盛にして



(谷 盤)

胡椒等を輸出せり

三百呎の鐵路を有するも航路は全くヨーロッパ人の掌中にある、電信線は四千呎に達し又郵便の設けあり

(シヨンバ)

バンコク(1,000,000)

は王國の首府にして溟南河の畔にあり、商

バンコク

業稍旺盛なるも住民の半は支那人なり

●イギリス領

本領地は海峽殖民地、マライ保護地、ビルマ部并にアンダマン、ニコバルの二列島より成れり

海峽殖民地

海峽殖民地はシンガポール島、プロビナン島及、エレスレイ、マラッカの二州より成れり、面積は三千九百九十八方呎なるも人口は凡そ五十九萬なり、シンガポール島は海峽の南端にありて一の良港を有せり、市街は六十餘年以前の創設に係るが氣候の炎熱なるにも拘らず、健康に適するを以て長足の進歩を爲し遂に今日の盛況を觀るに至れり、日本、清國、印度、ヨーロッパ等に關する貿易場たる本市には人口十八萬四千餘あれど居民の多數はマライ人及支那人にしてヨーロッパ人は甚少なり、又プロビナン嶋は氣候の佳良なるを

シンガポール

以て名あり

マライ保護地

マライ保護地は六萬四千方呎の面積と六十餘萬の人口とを有しペラック、セラシラン、バハンダ等の部落より成れり

ビルマ部

ビルマ部は上下ビルマ、シン諸州、東アッサム、マニプア、リシカシンより成りて八十萬方呎の地積と一千三百萬餘の人口とを有するが印度帝國の管轄に屬す

ビルマ

ビルマはイラワヂ河とサルエン河の中部との流域に當り、季候風の齎らるる多量の雨水を受くるが故に灌漑の利は充分なり、地積は四十四萬餘方呎にして人口は七百六十萬に達せり、住民の多數はビルマ人なるが言語は元來單音的なるも印度のバリ語の混同せしもの甚多し、而して國人の多數は佛教を信奉せり、農業は稍盛にして多量の米を産じ、牧業、漁業には多少見るべきものあるも工業は極めて

ラングン

マンダレー

不振なり、ラングン(一八、〇〇〇)はイラワヂ河に瀕す、大船巨船と雖、自由に出入するを得るが盛に米を輸出す、マンダレー(一八、〇〇〇)はイラワヂ河を隔ること一里の地にあり、舊國都たりし處なり

●マライ群嶋

マライ群嶋はホリピン群嶋、ボルネオ嶋、大ソングダ列嶋等より成りて凡百七十五萬方料の面積を有せり、内海に面する海岸は概して平低なるも印度洋又は太平洋に瀕するものは斷崖絶壁に富めり而して海岸線の屈曲は各嶋均一ならず、ボルネオ嶋は土塊的狀貌を呈するを以て極めて彎曲に乏じきもホリピン群嶋の各嶋には何れも多くの屈折を觀る

山脈の趨勢は極めて錯綜し數多の山系は縦横に走行せ

山岳

海岸

マレー群嶋

河流

氣候

天産

高山は各島に於て之を觀るも最高點はボルネオ島のキリマンジャロ山にして直立は四千一百七十五米突に達せり、特に顯著なる二條の火山脈あり、其の一は大ソングダ列島を貫通して激烈なる活火山を噴起し小ソングダ列島の方に趣けり、其の二はモリカ諸島より起りセレベス島の北端を経てマニラ群島に入り北の方、我が臺灣島に達せり、河流の多くは溪流に過ぎざれどもボルネオ嶋には稍著しきものあり、氣温は常に二十六度前後を保ち最高と最低との差は僅に二度あるに過ぎず、雨量の年平均は二米突前後なるも土地の高低に依りて著しき差異あり、森林は各嶋に蕨藪として殆ど全地を蔽ひて各種の香料を生産、農業は佳良の珈琲、砂糖、麻、煙草等を與ふ又動物は爬蟲

昆蟲の類に富めるも珍禽奇獸は甚多からず

●アメリカ領

本領地はマライ群島中の北東に位せるものなるが北と南にルソンとミンダナオとの二大島あり、其の間にはピサヤス諸島ありルソン島の南西にはミンドロ島カラミヤス諸島パラウアン島あり、ミンダナオ島の南西にはスールー列島あり、其の他の小嶼に至りては實に枚舉するに遑あらず、面積は凡三十萬方呎にして人口は凡七百萬なり

ルソン嶋

ルソン(呂宋)島は十萬方呎の大島なるが北部は南北に巨りて稍廣くマニラ灣、ベイ湖より以南のカマリヌ半島アルベイ半島は東西に走り、狹長にして極めて彎曲に富めり、火山脈は全島を貫くも河流の多くは沿岸の細流たるに過ぎず、土地はユラヌ季の雨水とノルダヌ季の温熱とを受く

ヒリピン群嶋

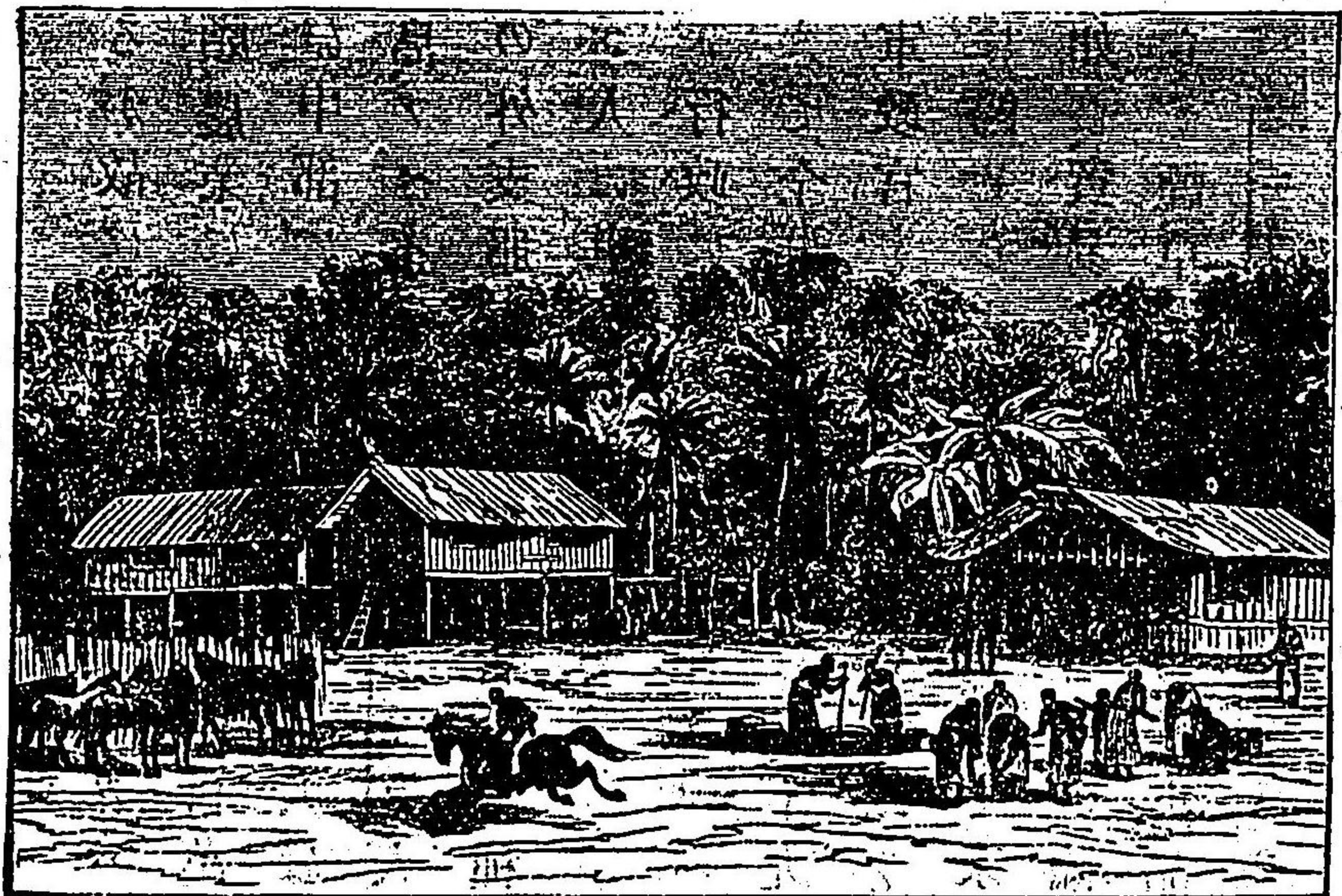
るが故に甚豊なり、烟草、アカバ(俗にマニラ麻と云)、香蕉、砂糖、等を産じ

頗る農業に適せり、住民は四百萬人なるがタガログ人(二百萬)は中部に居り、チグリティス人は北に居り、南部のカマリヌ半島、アベイ半島にはピサヤス人(七十五萬)の住居するあり、此の外支那人は各地に居りて種々の業務を營むも、エスバニア人は其の數甚多からず

行政に關しては從來エスパニアは總督をマニラ府に置き、さて全群島を統轄せしめ、十九州に民政官を設け、九軍府に軍政官を設けて地方の行政を司らしめしが、合衆國の版圖に歸せしより以來日尙淺く未だ新制度を布くに至らざるが如し、貿易は二千百萬ペソの輸入と三千萬ペソの輸出とにして、煙草を以て最要の輸出品とせり

マニラ(一五、〇〇〇)はマニラ灣に瀕し、パシグ河に跨る一

マニラ



部は總督府、兵營、官衙、等
 の所在地にして胸壁を
 繞らば防備を嚴にせり、
 他は他の部はボンンドと稱
 する市街の地にして支那
 人多く商業盛なり、又煙
 草製造を以て有名なり
 而して本府の外尙稍著
 (落) びき都會はリバ(四、三〇
 十、〇〇)バウアン(二、五〇〇)
 非のダシガス(三、五〇〇)カ
 人オアング(三、〇〇〇)等な
 り又バキ島にイ

口港ありセブ島にセブ港あり共に百貨の集散に従事す

◎オランダ領

本領地は大ソング列島とボルネオ島の一部とより成れ
 り面積は凡百二十五萬方呎にして人口は凡三千萬なり而
 してオセアニア洲に屬するものを加ふれば東印度殖民地
 の面積は百九十二萬方呎と成りて人口は三千五百二十萬
 と成るなり

東印度領地は擧げて總督の管轄に屬す兵備は陸兵に凡
 四萬三千人あるが其の過半は土人にして東印度艦隊は十
 六隻一萬三千噸なり、財政に就きては歳入一億四千萬、フ
 ロリンにて歳出一億五千五百萬、フロリンをれば一千五百
 萬、フロリンの不足なり、生業は農業を主とし盛に珈琲、砂糖、
 煙草、藍葉、米穀等を産す、又鑛業はパンカ、ピリトンの二島に

東印度殖民
 地

於て錫を採掘せり、天然林は各島にありて、木材、果物、香料、籐等を與ふ、貿易は輸入に一億六千八百萬、フロリンありて輸出に一億九千九百萬、フロリンあり、其の内、政府の輸入に係るもの凡そ七千三百萬、フロリンにして輸出は凡そ一千四百萬、フロリンなり、而して輸出品の重なるものは砂糖、珈琲、煙草、錫、糊、椰子油、石油、米、等なり、道路の發達は至りて不充分なれども、鐵路はジバール、スマトラの二島内に凡そ二千一百料あり、商船は二千一百隻、二十五萬噸ありて、領地内の各島嶼并に本國間の航路を往來せり、郵便局は凡そ一千四百箇所あり、電信線には空架線の凡そ八千二百料と海底線の凡そ一千五百料とあり

大ソングダ列島はジバール、スマトラの二大島とバリ島、其の他の島嶼より成れり

ジバール嶋

ジバール島(二二、七一二三平方料)は屬島のマツौर(四四〇〇平方料)と共に東西に亘り長きは凡そ二千料にして、潤きは百五十料乃至百九十五料なり、山脈は全島を貫きて各處に火山の噴出せるを觀る而して山岳の中にて最高なるはセムル山にして、直立三千七百米突に達せり、本島は赤道を距ること僅に七八度に過ぎざるも海洋より吹き來る涼風絶えされば温度は甚酷烈ならず、雨量は至りて多くして、河流の水源を養ふも巨川の存することなし、又西部は濕潤にして地味も極めて肥沃なるが東部はオーストラリア大陸の乾風の影響を蒙りて温度充分ならず、住民(二千六百萬)の大多數はマライ人種に屬するジバール人なるが他に二百六十萬の支那人と五萬のオランダ人あり、言語には種々の土語あれども最行はるるはジバール語なり、バタビア(一一、〇〇〇)は小灣に瀕

バタビア

スマトラ嶋

運河に跨りて船舶碇繋の便は多少備はれども良港なり
 と云ふを得ず、ブイテンツルグは内部の山間にあるが東印
 度總督の居住地なり、スラバヤ(一一、五〇〇)は重要なる商港
 にしてスラカルタ(一〇、〇〇〇)は印度洋に瀕す
スマトラ島は四十七萬方秊を有する大嶋なるが急峻な
 る山脈は西岸に屹立して全島を貫きインドラプラ(三七〇〇
シンガラン、三〇〇〇)等の火山を包括せり、河流は饒多なるも
 概細流にして稍著しきものをムシ河とす、氣候は酷熱を感
 じ雨量は極めて多くして地味は甚豊なり、天産は特に植物
 に富めるが大鱈は此地の特産なり、人口は凡三百萬あれど
 も數多の種族に屬せり、バレムバン(五、三〇〇)はムシ河の下
 流に瀕する商業地にして本島第一の都會なり
バンカ島及ピリトン島は錫を産するを以て有名なり

ホルチオ嶋

ホルチオ島は世界第二の大島にして、七十三萬方秊の面
 積を有し赤道の南北に亘れり、内部は暗黒不明の箇處多く
 して稍交通の開けたるは沿海の地なりとす、されば山脈の
 趨勢、河川の流域の如きは充分の探見を経ざるを以て確言
 するを得ざれども、要するに附近の島嶼と異なりて本島中
 には一の火山なく、大陸的地貌を有せり
 本島に住居するマライ人に二種あり、ダヤク人と云ひ回
 教マライ人と云ふ、黒色のアルホラスは内部の僻地に散在
 せり、支那人は其の數三十萬以内なるべきも砂金を採り又
 農業を務む、此の島の東部、南部、西部はオランダに屬し凡五
 十五萬方秊の地積を有し凡百三十萬の人口を有するがバ
ンシルマッソン(四、六〇〇)は最大の市街たり

●イギリス領

本領地は北ボルネオ殖民地とブルネイ、サラワックの二保護地とより成りて二十萬方村の地積及五十萬人の住民を有せり、ラナン島はボルネオ島の南西岸に沿ふ一小島なれども錨地として名を知らる

●印度

印度地方は印度半島とセイロン島との二部より成れり

其一 印度半島

印度半島は南アジアの二大半島の一にして、インドヒマラヤ山脈は之を二部に分てり、北部は平低の地にして、ヒンヅースタンと稱し、南部は臺地より成りてデカンと名づく、而して面積は三百八十萬方村なるが西はコンカン山脈、カラコルン山脈、ヒマラヤ山脈を戴きてチベット高原に接し、東はブラマプトラ河を挟みて印度支那に境し、南東はベングアル海、印度洋に臨み、南西にはアラビア海を控へ、西は印度海を隔

境域

海岸

山岳

ててイラン高原に隣せり

本地は印度洋に突出せる半島にして、海岸線の延長は二萬村あるも、海灣の数は至りて少なく、良港に乏し、東にベンガル海あり、バルク海峡に依りてマナアル灣に通ず、西にあるをオマン海とカンベイ、カッチの二灣とす、半島にはグトゼラット及カッチあり、地角にはカリメーヤ及コモリンあり、而して島嶼には南西の外洋にマルヂブ、ラカヂブの二列島あるのみ

ヒマラヤ山脈中には山岳の王と稱すべきガウリザンカル山(八八四〇)あり、その他、カンチンジンガ(八四七八)、シースル(八四七五)、ダワラギリ(八一八〇)等の六峯は八千米突以上の高を有せり、後、ヒマラヤ山脈はデアルミル(八一三三)山を有し、カラコルン山脈中には山岳中の副王とも云ふべきダ

河 流

ブサン山(八六一五)あり、アッサム山脈は三千米突以上の高岳を包含し、インドヒマ山脈にありては一千五百米突以下に低下しアラバリ山脈、サトプラ山脈等は顯著ならざるもガト山脈は南走して愈高く、ドダベッタ山の如き秀嶺を有しアマレン山彙中の山岳も稍著し

○ベンガル海斜面に屬する河流はブラマプトラ、ガンジス、マハナヂ、ゴダベリ、クリシナ、カベリ等にしてアラビア海斜面にあるものはインヂス、ロニ、マヒ、ナルバダ、ダプナ等なり

ブラマプトラ河は源をガンリ山脈に發す、上流をヤルザンボと稱し、ヒマラヤ山脈を迂回しアッサム地方を貫きベンガル灣に注ぐ、本河は二千五百三十三浬の長に達し、百五十萬方浬の流域を有し、多量の水を輸送するも寒冷の地、人口稀薄の土を潤すに過ぎざれば其の効用甚著しからず

ガンジス

インヂス

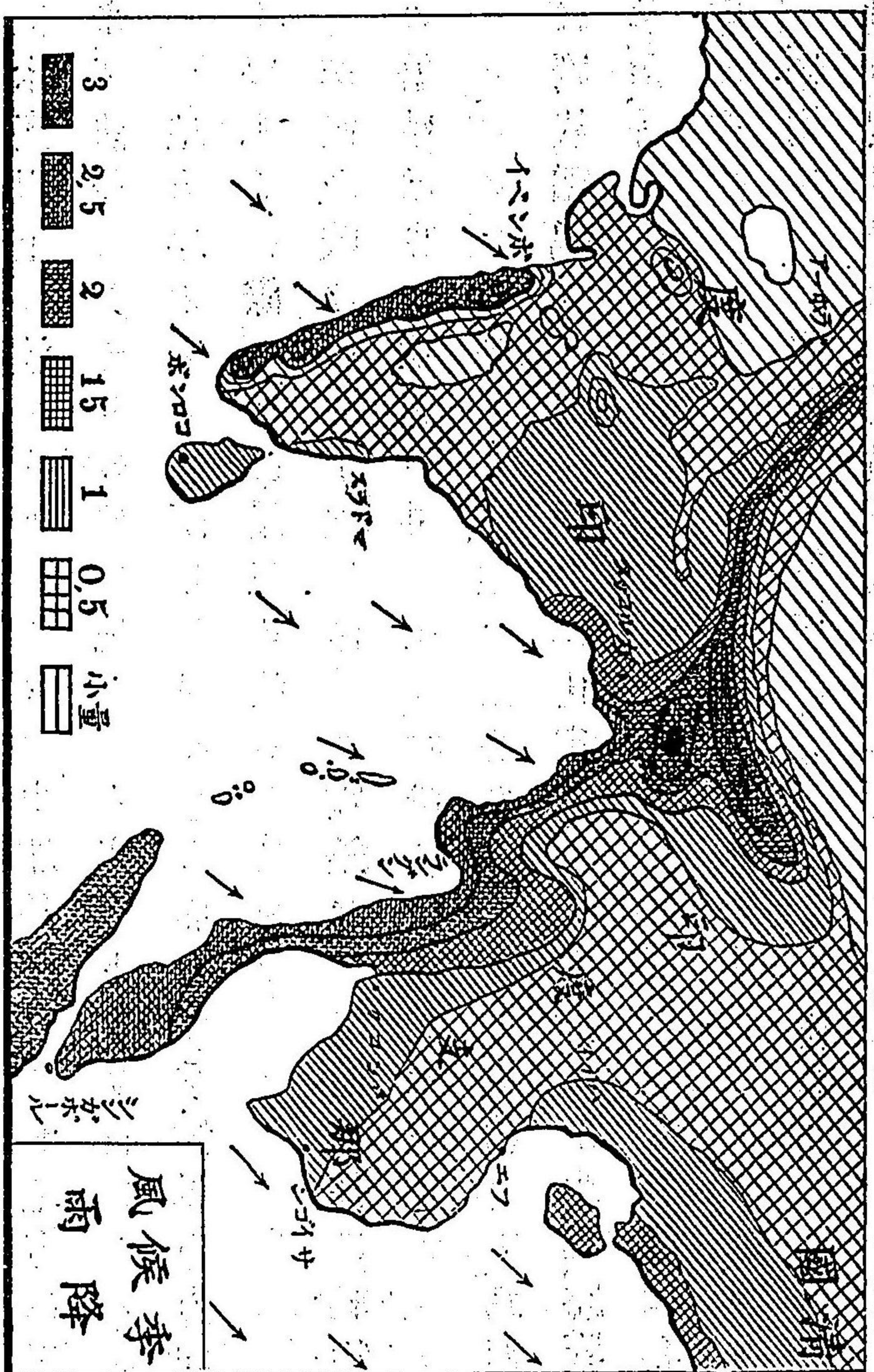
ガンジス河は源をイビガミンの麓、海拔七千七百八十一米突の高處に發し奔流して寒地を去り暖地に赴き、山地を離れ低地に至れば流勢漸緩漫と成り、トアブの平野を潤して水量を減ずるも、アラハバドの近傍に於て巨大なる支流、ダムナを容るるを以て幾多の疏水を分派するに拘らず愈増大して沿岸の地をして天下無双の良耕地たらしむ、ベナレスを経たる後、支流ガグラより多量の水を受けベンガル地方に入り數多の派流に分れ、ブラマプトラと共に廣大なる三角洲を成してベンガル灣に注ぐ、特に末流の一派たるフーグリは通船の便甚多し、本河は源委通じて二千七百餘浬の長を有し、流域は九十三萬方浬に過ぎざるも其の効用たるや絶大にして實に世界第一の河流と稱すべし

インヂス河は水源をナベト高原に於ける海拔六千七百

氣候

餘米突の地に發す上流に於ては急峻なる傾斜を有するもアトックに於てカプールを受くる頃には平坦の地を流る而してサトレッジ其の他の四河を合せたるパンジント河の水を受けたる後は左にスパール砂漠を控へインドリイラン山脈の麓を洗ひ河口に近づけば十一派に分れアラビア海に注ぐ本脈は三千呎の長を有し、百十萬方呎の流域を有するも効用は遙にガンヂス河の下にあり

ヒマラヤ山脈中に於ける谷地にありては温度は季節、海拔緯度に依りて變化し、日光を受くるの度に従ひて著しく昇降するも其の他の地にありては温度の高低は南北に依ること少なくて東より西に趣くに從ひて差異を生ぜり、南西の季候風并に南東又は南の定風は六月より九月までにして北東の定風は乾風なり、雨量はアッサム、ベンガル、マラ



季候風降雨の圖

天 産

バル地方に多く特にベンガルのナラアンダにありては十
 二米突以上に達せりガンダスの中流并にオリッサ地方は二
 米突前後にして其の他の地は一米突以下なり特にラシプ
 タナ地方にありては雨量は甚少なり而して季候風の方向
 を變ずるに際しては暴風の起ることあり
 季候温暖にして土地は極めて豊饒なれば植物并に動物
 の繁殖は實に豫想の外に出づ爬蟲には陸蛇、水蛇、コブラカ
 ペロ、ガビヤル等あり、猫類の主要なるものを虎、豹とす、鳥類
 は鷹族、鸚鵡族に富み野生の孔雀あり、又家畜には牛、馬、駱駝、
 羊、象等あり、綠樹は蕨藪として各地に森林を成し竹、籐は各
 處に茂生して廣大の土地を蔽ふ、樹木の中にはココア、コリ
 ハ、榕樹、ナーク、黒檀あり、果樹には芭蕉、アナナ、柑、葡萄あり、其の
 他、米、麥、蜀黍、木綿、麻、黃麻、烟草、藍草、鴉片あり、鑛物には金、鐵、亞

住 民

鉛、銀、鉛、石炭等あり
 印度半島に居住する人類の總數は二億七千萬人なるが
 幾許の種族より成れるかは明瞭ならず、黒種にはメンウス、
 ムレナスの二種族あり共に最舊の土人にしてデカン半
 島の深山、幽谷の地に棲居せり、黃種には二派あり、其の一は
 ナベトより來れるドラビヂアン種族にしてデカンに居住
 し其の二はツौरアン地方より移住したるシヤト種族にし
 てインド河とギンドヒヤ山脈との間に居る、白種に屬する
 種族にして最舊きものをカブール地方より來侵したるア
 リヤスとす然れども其の數の多からざる他の種族と混同
 して遂に純種は消滅せり、近世に至りホルトガル人、オラン
 ダ人、フランス人、イギリス人は南方より渡來せり
 宗派は錯雜にして悉、列擧し難きもバラモン教徒は甚多

宗 教

言語

くして、一億九千萬を超過し、佛教信者は二千萬に過ぎず、回教徒は稍多くして五千萬に達するも、基督教徒は二百萬餘あるのみ、其の他に百二十萬のヂャナイスあり、二百萬のシクあり、八十五萬のバリジスあり、六百五十萬の拜物者あり、平野印度に行はるゝ言語の中で最通用の廣きウルツ語は八十有餘の土音に分けて一億人の使用する所にして、ヒンデ語は主として農民の用に供せらる、デカン半島にありてはデレンガ語、タムール語等を以て稍著しきものとす、而してイギリス語は政事上又は上流社會に用ひらる、人情風俗の土地に依りて差異あるは勿論なれども、印度の住民中に於ける社交的階級は實に顯著なりとす、社交上最高級を占むるものをブラマヌとす、之に次ぐものはクシ、ルトリヤスにしてアリヤン、ジャー、ラジプト等の各種族に屬

風俗

せり、中位にあるはバイシヤスにしてツラヌ種族に屬し、地主又は商賈たり、其の下にあるをスードラとす、黒種若しくは黒色と黄色との雜種にして概勞力を以て世を渡る、最下級にあるものをバリヤスとす

本半島には僅少の獨立地あるの外、大部分はイギリス、フランス、ポルトガルに屬するが殊にイギリスの領土廣大にして殆半島の全部に亘れり

◎獨立部

チパール國は中央ヒマラヤ山脈に據る、狹長にして十五六萬軒の面積を有す、低地は炎熱に失し、高地は寒烈に苦しむ、テライは温和にして頗る健康に適せり、人口は凡三百萬人なるが首府はカトマンヅー(七、〇〇〇)にして海拔一千三百二十七米突の地にあり

ブータン國はヒマラヤ山脈に據りて四萬方軒の地積と二十萬の人口とを有す、首府はタシヌードンにして海拔五百三十米突の地にあり

分國

●イギリス領

印度半島は僅少なる部分を除く外、悉く大ブリティッシュ
 ーランド聯合王國に屬し、印度帝國の主要部を爲せり。
 イギリス政府は本國に印度事務大臣を置き、此の地に總
 督を置きて帝國を管理せしむ。總督會議は輔佐の任に當り
 行政部は財務、商務、内務、稅務、農務、外務、工務、法務の各局より
 成れり。其の他に電信、郵便、鐵道、森林、療病等を司る各種の官
 衙あり。地方に監督官、副監督、駐在官、管理官等あり。
 本領地には直轄地と保護地との二種あり。直轄地は三管
 區、二百五十有餘の小區より成るがベンガル管區は三管區
 中の最大なるものにして本領地の北部、東岸并に中央の一
 部より成り、パンジ州、西北州、低地州、中央州に分かる。而して
 印度支那のアッサム、ビルマ等も此の區に屬せり、マドラス管

區は南部と東岸の一部とより成り、ボンベイ管區は北西沿
 海の地より成れり。保護地には六百有餘の小邦ありて或は
 管區に屬し或は總督に直隸す。
 兵備は土地の廣大なるに比しては甚だ微弱なるが如きも
 是主として印度人の制御し易きに因らずんばあらず。陸兵
 は二十二萬にして其の内、土兵は五萬餘なり。兵艦には十六
 隻ありて噸數は凡そ二萬なり。
 財政は歲入に九億四千三百三十萬、ルーピーありて歲出に
 九億八百三十四萬、ルーピーあり又國債は二十三億七千萬
 「ルーピー」に達せり。
 農業は實綿、米、麥、鴉片、芝蔴、藍葉、茶、煙草、珈琲等を産し、牧業
 は牛、馬、驢、羊、駱駝、象等を飼養し、鑛業は石炭を産出す。工藝に
 は熟皮、毛布、カシミヤ毛被、敷物、飾具、飾器、土器、彫器の製出あ

交通

り製紙、製絲、紡績、ビール醸造等の漸次に隆盛に趣くあり、貿易の高は凡二千億ルーピーなるが輸入と輸出との割合は九と十一との比にして輸入品は綿布、鐵道用材、鐵銅器、綿絲、砂糖、石油、毛織物、衣服、絹織物、等にして輸出品は實綿、黃麻、茶、鴉片、綿絲、皮類、黃麻製品、藍葉、麻實、珈琲、穀類、等なりとす

鐵道は三萬三千八百二十杆に達し、郵便は九千九百四十八局を有し、電信線は架空に七萬八千杆ありて海底線に四百三十三杆あり

カルカッタ

カルカッタはベンガル管區の主府たると同時に印度帝國の首都たり、ガンジス河の一派なるフーグリに跨れる一大都會にして八十一萬の人口を有せり、然れどもヨーロッパ人は一萬餘に過ぎずしてウラシア人も二萬に達せず、其の他は凡土人なりとす、本府の白街には宮殿、官衙多く頗る美觀を

ベナレス



(カッカルカ)

呈するも黒街は土人の居住地なるを以て見るに足るものなり、土地平低にして濕潤に失し飲料水に乏しく至りて不健康なり

パトナ(一六、〇〇〇)はガンジス河の畔にありて交通上の要處たり、ベナレス(二二一、〇〇〇)はバラモン教徒の聖地にして數多の寺院あり、僧侶の居住する

もの極めて夥し、アラハバット(一七、〇〇〇)はガンジス、ナムナ
 二流の相會する地に近く交通上の要隘に當りて盛大なる
 都となるべき望みあり、カンポール(一八、〇〇〇)は一千八百五
 十五年に土民の憤起し始めて兵を擧げたる地なり、ラクナ
 ウ(二七、〇〇〇)はガンジス河の支流ガナ河の畔にあり、市街
 は宮殿、洋屋等ありて稍美觀を呈するも又土製の小屋多數
 にして印度市街の特徴を顯せり、アグラ(一七、〇〇〇)は往昔
 大アッバの世にありて盛を極めしが現時は僅に城廓、宮殿、寺
 院等を保有するに過ぎず、デリー(二一、〇〇〇)は往昔回教王國の
 都たりし所にして今に繁華の地なり、ラホル(一八、〇〇〇)は
 バンジール州の首府なり、アムリツル(一四、〇〇〇)はバンジール
 にあり、シクールの都にして樞要の地となす、スリナガル(一
 二、〇〇〇)はカシミヤにあり、氣候温和にして風景に富めり

ラクナウ

デリー

ボンベイ

マドラス

往古回教王國の夏季の殿宇のありし地なり、アームダバット
 (二五、〇〇〇)并にパロダ(二二、〇〇〇)はカンベイ灣を距ること
 遠からず、交通上の要區たり、シナイプアー(一六、〇〇〇)はラジ
 プタナ國の首府にして堅城を有せり、ボンベイはボンベイ
 管區の首府にして人口の饒多なる、商業の繁榮なる實に印
 度第一の都會なり、住人は八十二萬餘ありて其の内ヨーロッパ
 人は一萬餘なり、貿易港としては盛に實綿、米、鴉片等を輸
 出せり、プナ(一六、〇〇〇)は海拔五百六十三米突の地にある
 を以て氣候佳良なればボンベイ管區の夏季の首府たり、マ
 ドラス(四五、〇〇〇)はマドラス管區の首府にして美麗なる
 白街と麗造なる黒街とに分かる、而して一萬五千の白人は
 此の地に住居せり、氣候の炎熱なると港灣の不良なるを
 以て名あり、バンガロワ(一八、〇〇〇)は海拔九百米突の地に

ハイデラ
バット

あるを以て、天氣常に快朗にして頗る人生に適せり、ハイデラ
バット(四一、〇〇〇)はデカンの最大都會なり

◎ホルトガル領

ホルトガルは僅にゴア、ダミニオ、ヂョーを保有するに過ぎず

◎フランス領

フランスに屬する現今の領地はシアンデルナゴル、カリカル、マヘ、ボンヂシ
リ、ヤナオンの五ヶ處あるのみ

其二 セイラン島

セイラン島はインド半島の南に於ける一大島なるが面
積は凡六萬四千方杆なり、海岸線は單純にして良港に乏し、
山岳少ながらざるがペドロタラガラとアダムとの二峰を
以て最顯著なるものとし、河流は饒多ならざるにあらされ
ども巨大なるものを見ず、氣候は低地にありては酷熱に苦

むも海拔一千乃至一千五百米突の地にありては溫暖適度
の季節多くして恰、長春にあるが如し、天産はインド半島と
は異りて椰子、茶葉、肉桂等を産す

住民は凡三百三十五萬なるが其の中の多數はシンガル
種族にして殘餘は概々ミル種族に屬せり、且又中央の山地
に徘徊せるベッタ人は蒙味なる野蠻民にして本島最舊の住
人なるが如し而して行政上は本國殖民省の直轄に屬し知
事は行政會議、立法會議の補助に依りて全島の施政を司れ
り、生業は未だ充分の發達を見ざるも農業は盛にして珈琲、茶
葉を産し、貿易は輸出入何れも凡八千七百萬磅なり、首府はコ
ロンボ(一一、〇〇〇)にしてセイラン島第一の要港たり

中部

●イラン高原

イラン高原は二百六十方呎の面積を有す、インド河の西、ナグリヌ河の東に於ける一帯の高原地にして北はカスピ海并にユツペット、カラ、ヒンヅークシ、等の山脈を控へ、南はアラビア海、ペルシア灣に臨めり、而して沿海の地に屹立せる山脈は海洋より來る濕氣を遮るを以て、内部にありては天氣常に快晴なるも乾燥甚たし、されは寂寥たる荒蕪の地に稀に村落の點在するを見るのみ、然れどもクルヂスタン山脈の西、エルブルズ山脈の北に於ては水量に不足なきを以て米田、麥畑、華園、牧場等の存するあり

◎ バルシスタン

バルシスタンの面積は二十七万五千方呎にして人口は五百萬なるも土地は概々礫確にして産物に乏し、一千八百七十六年の條約以來、此の地はイギリスの準保護國たり、ケラットはカンの居住地にして此の國の首府たり、

バルシスタン

◎ アフガニスタン

アフガニスタンは五十六萬方呎の面積と五百萬の人口とを有するが國土は概にして山地に屬せり然れども此處彼處に肥沃の地ありて耕耘に適し毎歲二回の收穫あるを常とす、米、麥、黍等の如きは近隣の諸國に輸出するの餘裕あり、政體は君主專治にして君主をエミールと稱す、然れども其の實はイギリスの屬地の如くにして交通上樞要の地はイギリス人の占居に係れり、道路は概して險惡なるもペイシヤル、カブール間は容易に車馬を通ずるを得而して貨物の運搬には駱駝を用ふるを常とす、首府はカブール(七、五〇〇)にして交通上の要區たり、カンダハル(五、〇〇〇)はヒルメンドの支流に瀕せり、ヘラット(五、〇〇〇)はインドとロシアとの間に於ける交通上の要區なり、

アフガニスタン

● ペルシア國

ペルシア即ちメマリクイマーールセイイラーンは百六十四萬方呎の面積を有せり、カスピ海の沿岸は濕潤にして森林

山脈河流

に富めるが南部の海岸は乾燥にして激烈なる熱風の起る處なり、主要の山脈は北にエルプールス山脈あり、南にザグロ、クーザナル等の山脈あり、河流は其の數至りて少なけれどもアルメニア地方并にペルシア灣沿岸の地には、多少の流水あり、而して沼湖には唯一のウルミア湖あるのみ、氣候は極めて乾燥にして湿度の平均は僅に十四五度に過ぎずして、気温の變化は激烈なり、土地は耕地、牧地、林地に四分の一を充つるを得れども、其の他は概荒蕪不毛の地なり、然れども灌漑の利ある地は甚肥沃にして米、麥、煙草、鴉片、實綿等を産し、椰子樹、櫻桃、葡萄、柑類等の果實を與ふ

土地

住民

人口は凡九百萬なるがタジク人、トルコ人、トルコマン人、クルド人、アラビア人、アルメニア人等の種族より成りて概マホメド教を奉せり、政體は君主專治にして君主をシー

政體

生業

と稱す、生業は農を主とすれども多少の工藝なきにしもあらず、貿易は全計七千餘萬圓にして綿布、紙、鐵銅、砂糖、茶等を輸入し、絹布、煙草、鴉片等を輸出せり、鐵道の設けあるも延長は僅に十八程に過ぎず、

テヘラン(二三、〇〇〇)は王國の首府にしてデマペンド山の麓にあり、イスパハン(八、〇〇〇)は稍繁華の地とす、ブシル并にベンデルアッバスは貿易港なり、ダブリツ(二八、〇〇〇)は往昔の繁華を有せざるも一大市街たるを失はず、

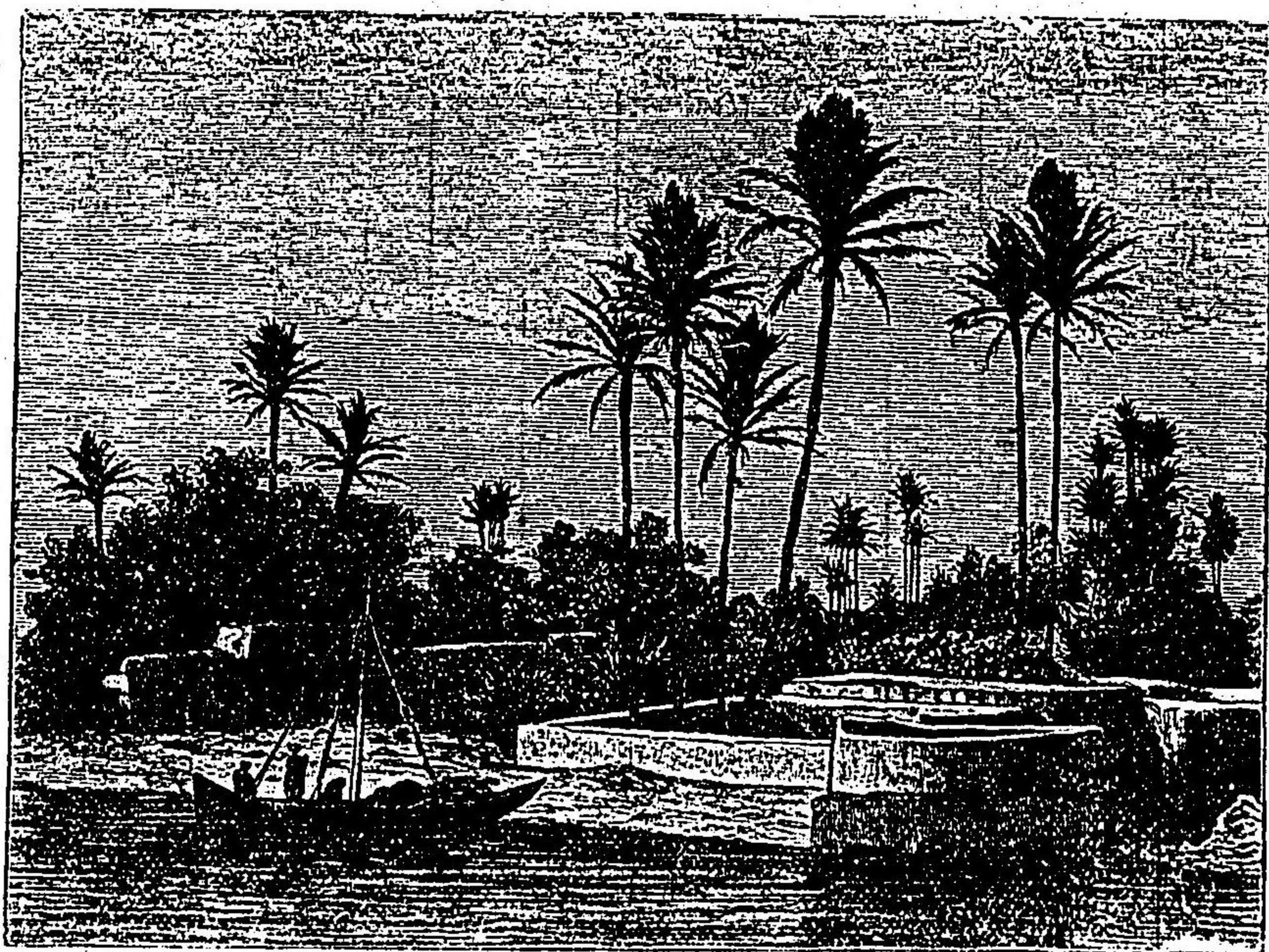
西部

● アシヤトルコ

アシヤトルコはアシヤの西部にあり、面積は百六十八萬方程に達するもエルズルム山地、アナトリア臺地、ヂエルベキル高地、メソポタミア平地、シリヤ并にアラビアの一部よ

面積

河
流



(畔河スリグナ)

り成りて地勢上調和
単一の性を缺けり、然
れども山脈は趨勢の
錯綜を極むるに拘ら
ず概二の山系に屬せ
り、河流は其の數少な
からざるも、大河を以
て目すべきものは唯
一流あるのみ、エウフ
ラテス河は水源をエ
ルズルム山地に發す、
上流にありては水勢
急激なるも、メゾポタ

沼
湖

氣
候

ミア平野に出づれば、百二十五米突以内の河幅を以て緩流
す、ナグリス河を合せてシトエルアラブ河と成り六七粒を
流れ行きてペルシア灣に注ぐ、源委通じて二千五百粒あり、
ナグリス河は水源をザアルベキルの山地に發す、流勢の急
速なるを以て其の名を知らる、沼湖は其の數甚多し、然れど
も稍著しきものは死海の一湖あるのみ、此の湖は一千方粒
以内の湖なるが海面より低きこと三百九十二米突の凹窪
地にありて、ヤルダン河を受くるも、外海に通することなく
魚介の生活に適せず、氣候は地方に依りて大差あり、エルズ
ルム、バン兩湖地方の平均温度は六度半なれども冬季には
嚴寒を感じ、夏季には酷暑と覺ゆ、地中海沿岸のスマイルナの
平均は十八度にして、黒海沿岸のトレビゾンドは十五度な
り、パレスチナは温暖なれどもゴールの谷地に於ては平均

天 産

住 民

生 業

二十四度に達せり、メソポタミアは炎暑の地なるもシリア
 アアラビアの酷暑に比すべくもあらず天産は植物を主と
 す、大河又は地中海に瀕する地は肥沃にして穀類、果物を産
 し、リバン山脈は森林に富み、メソポタミアには耕地多し、
 住民の總數は一千七百四三十萬なるが、小アジアの沿岸の
 地にはギリシア人あり、シリアにドリズ、マロニットの二種族
 あり、パレスチナ、アラビアにはアラビア人多し、而してトル
 コ人は各地に散在せり、アジアトルコはトルコ帝國の一部
 なるを以てシルトタンの主權の下にあり、農業は穀類、葡萄、鴉
 片、珈琲、無花果を産す、牧業は稍盛なるが工業は更に振はず
 して僅に革類、敷物を製するに過ぎず、全國の貿易は輸入に
 二十四億七百萬、ピアストル(一ピアストルは我が八九錢)ありて、輸出に十三
 億七千五百萬、ピアストルあり、鐵道は小アジアに二千一百

都 邑

七十軒ありてシリアに三百四十二軒あり、
 スミルナ(二一〇、〇〇〇)はアジアトルコ第一の都會にして商業
 甚盛なり、ブルサ(七、六〇〇)は工業の稍盛なる地なり、ダマス
 (一五、〇〇〇)は絹布を製す又商業として名あり、ベイルス(一
 二、〇〇〇)は要港たり、ジェリザレム(四、一〇〇)は宗教史上に有
 名なる地なり、メッカ(六、〇〇〇)は回教信者の靈地なり、バグダ
 ド(一四、五〇〇)はチグリス河畔にあり、古來有名なる地にして
 今に商業の一中心たり、

サモス嶋

サモス嶋はエウヰア海に於ける一小島にして人口は凡五萬なるが耶蘇正
 教派に屬せり君主はトルコ皇帝の封冊を要するもロシヤ、イギリス、フラン
 ス三國の擔保の下にあり、首府はサモスにして葡萄酒、葡萄、革、油、等を輸出す

◎キプロス島

キプロス嶋

キプロス島は乾燥に失するを以て耕地、林地は甚多からず、然れども尙質

綿、葡萄等を産す。住民は二十一萬あるが其の三分の二はギリシア人にして殘部はオスマンリイナリ。首府レウコシアは島の中央にあり、此の島は一千八百八十四年以來イギリスの所領と成れり。

●アラビア

アラビア半島は三百十五萬方呎を有する一大半島なり。海岸線の延長は三千七百呎なるも砂丘斷崖多くして彎曲に乏しく、マスカット、アデン等の如き二三の小灣を有するに過ぎず。禿嶺不毛の山脈は沼海の地に屹立して内部の高原を包圍せり。山麓にありて海洋に臨む低地は狹長にして砂礫の爲に蔽はれ、河流なく乾燥を極む。印度洋に接近せる山脈の背後にはマフナ即ち赤砂漠あり、其の二支脈は東西のチフーと成り、北進してシリアの沙漠に達せり。チフーにありては氣候温暖なれば不毛の山岳の存するに拘らず、此處彼處に泉地ありて耕地、牧地又は樹木を見ることが稀ならず、氣温は沿海の地に於ては炎熱を極むるも内部の山地にありては溫和なり、而して沙漠にありては高温なるも變動すること少なし。天産は饒多ならざるも咖啡、椰子の實、ゴム、馬、駱駝、眞珠等は有名なり。

トルコ領
イギリス領

住民の數は六百方と稱すれども種族は一様ならずしてアラビア人の外、シリア人、パコア人、黒色人等あり、本半島はトルコ并にイギリスに屬する沿海の地を除く外、概外國の所領たることなく、軍人又は僧侶の主權の下に獨立せり。チフーはシムマルとウアハビッドとの二部に分れ、オマンは同名の灣に瀕す。首府マスカット(三、〇〇〇)は良港を有す。

エルハッサ、エルベツチス、アッシル、イエメンの各地方はトルコ帝國に屬せり。アデン(三、五〇〇)はしてアラビア第一の要港なり、其の他にペリム島及クリアマリア島と共に印度帝國に屬す。

北部

●アジアロシア

ロシア國はヨーロッパの東部とアジアの北部とより成る一大帝國なり。アラル、カスピ、アツフの三海を合すれば總面積は凡そ二千二百四十三萬方呎にして、アジア部の地積は凡そ

一千六百五十萬方料に達せり、而して此のアジアロシアは
コーカシア中央アジア、シベリアの三地方より成れり

◎ ヨーカシア

コーカシアはコーカス山脈に跨り凡四十七萬方の地積
を有するが、其の内凡二十二萬方料はヨーロッパに屬せり、
コーカス山脈は重厚にして百料乃至二百料の幅を以て一
千一百料に亘れり、最高峯はエルブルス(五六六〇)なり、又ア
ンナコーカス山彙中に有名の大アララット(五五〇七二)あり、ク
ラ河(二三二七秤)は支流アラクスを容れてコーカシア河流
の首位を占む、而して沼湖中の最著しきものはエグナアなり、
氣候は土地の高低と傾向とに依りて大差あり、山脈の北西
又は西にありては多少の濕氣を受くるも南又は東にあり
ては大に乾燥炎熱を感ず、雨量は西部に三四米突を受くる

地積

山岳

河流

氣候

住民

も南東に於ては五十耗に過ぎず

住民は九百二十五萬人に過ぎざるも種族の饒多なる驚
くに堪へたり、シエオルシア人は山脈の南面に多く、シルカッシ
ア人は其の北面に居り、アルメニア人はアラクス流域の地
に住す、トルコ人はカスピ海沿岸の地に居り、スラブ人は各
地に散在せるも主として北部に住せり、其の他にタタル人、
ペルシア人、シテア人等あり、而してアルメニア人は天主教
信者なるもスラブ人は基督正教派に屬し、其の他は概して
マホメット教を奉せり、此の地は擧げてコーカシア總督の管
轄に屬す、生業は主力を農業に注ぎ穀物、果物を産す、又バク
ー附近の地は盛に石油を産す、鐵路には北部線にロストウ
よりノオロスク又はウラゲコーカスに達するあり、南部
線にボナ、バツームよりナフリスを経てカスピ航路の起點

行政
業政

都 邑

たるバクトーに達するあり、ナフリス(一六、〇〇〇)はクラ河に
瀕す、シオルシアの舊都にして總督府の所在地なり、バクトー
(二一、二〇〇)はユーカシア第一の商港にして盛に石油を輸
出す

中央アジア

面 積

中央アジアはカスピ海と天山山脈との間にありて面積
は三百五十萬方呎なるが天山山脈、バミール高原、ヒンヅ
クーシ山脈の附近を除く外、概して平低にして顯著なる山
岳の存するを見ず、ウストルソルトは荒蕪の臺地にしてア
ラル海の南東にはキシルクム、カラクム、アトクムの砂漠あ
り、其の他の地は概、ステラ、プと稱する草原多く、特、南部の山地
には肥腴なる土地の存するあるを見る、河流の主なるもの
には水源をバミール高原に發するアム河(三〇〇八呎)ありて

山岳河流

之に次けるものは天山山脈より出づるシル河(二五二〇)な
るが共にアラル海に注けり、沼湖の中にて最、著しきはバル
カン、湖なりとす

住 民

住民は七百七十萬餘なるも多數はキルギス種族にして
遊牧を事とす、此の外、市街の地にはサルド人多く、農民には
タジク人多し又ウスベク人はヘルガヌ地方を有せり、而し
てスラブ人は北部の領地にありては各種の業務を營むも
南部の新領地にありては官吏士卒多くして普通の人民と
しては甚少なし、本地は行政上九州に分たれ三州は内務部
の直轄に屬し、三州はステラ、プ總督の管轄に屬し、二州はトル
キスタン總督の管轄に係れり、生業に關しては草原の地に
多少の牧場ありて濕潤肥沃の溪谷には耕地を見るも、要す
るに物産少なく生産力に乏しき地なり、然れども季候風地

生 行
業 政

都 邑

方に達せんとするの要路に當れる點より考ふれば中央ア
シヤも亦重要な地なりと云ふべし、メルウ、アムダリアに依
れば印度に達し得べくイリー、シルダリアに依れば支那に
達し得べし、カスピ海沿岸のウズンアダよりメルウ、ボカラ
を経てサマルカンドに達するトランスカスピ鐵道一四三
三の建造は蓋此の目的に出せしならん

タシケン(一五、六〇〇)は中央アジア第一の都會にしてト
ルキスタン省の首府なるが住民は極めて雑多なり、サマル
カンド(五、五〇〇)はゼラフシンの流域にあり商業稍盛にして
回教信者の聖地なり、ホカンド(八、二〇〇)はヘルガナ州にあ
りてシル河に瀕す、オムスク(三、七〇〇)はイルチシ、河に瀕す
ステップ省の首府なり、メルウはトランスカスピ州の南部に
あり、ブハラとカンダハルとの中間に於ける交通上の要區

境 域

た
り

屬地 キバ侯國は六萬方秭の地積を有す、人口は八十萬にて首府をキバ
三、〇〇〇と云ふ、ブハラ侯國は二十萬方秭の面積を有す、人口は百二十五萬
にして首府をブハラ(七、〇〇〇)と云ふ稍繁華の地なり、

◎ シベリア

シベリアと稱する地はアジアの北部にありて、東西は長
くして六千六百十五秭に達し南北は短くして三千五百三
十七秭に過ぎず、面積は凡一千二百五十二萬方秭なり、海岸
線は長からざるにあらざるも概して氷結の爲に閉塞せら
るゝを免る能はず、島嶼は北部にシベリア群島、ウランゲル
島あり、東部にガラギンスキア島、提督諸島、シタル諸島等
あり、最顯著なるものはサハレン(樺太)島なり、又半島の著し
きものはヤルマル、タイムイル、カムチッカ等にして、地角には

山 岳

チリウスキン岬、タイムイル岬、東岬、ロバッカ岬等あり、
ウラル山脈は西にありアルタイ山脈并にサイヤン山脈
は南界にあり、スタノポイ山脈は東岸に沿へり、其の他ダウ
ル諸山、ケンド山、黒龍江諸山あり、且又カムチャッカ半島には
火山多くしてクリッチ(四八八七)を以て最著しきものとす、又
サハレン島の山脈は平均一千五百米突の高を以て南北に
互れり

河 流

河流には巨大なるもの甚多し、オブ河(四二三〇)は水源を
アルタイ山脈に發し濁水と流木とを平低の地に輸送し下
流に至れば河幅は四十浬に達しオブ灣を形成して北氷洋
に注ぐ、支流の中にて最著しきイルチシ、河は水源を南アル
タイ山脈に發しツァイサン湖の水を受け、數多の支流に依り
てウラル地方の水を集めサマロウスコイ附近に於てオブ

オプ

セレンガ

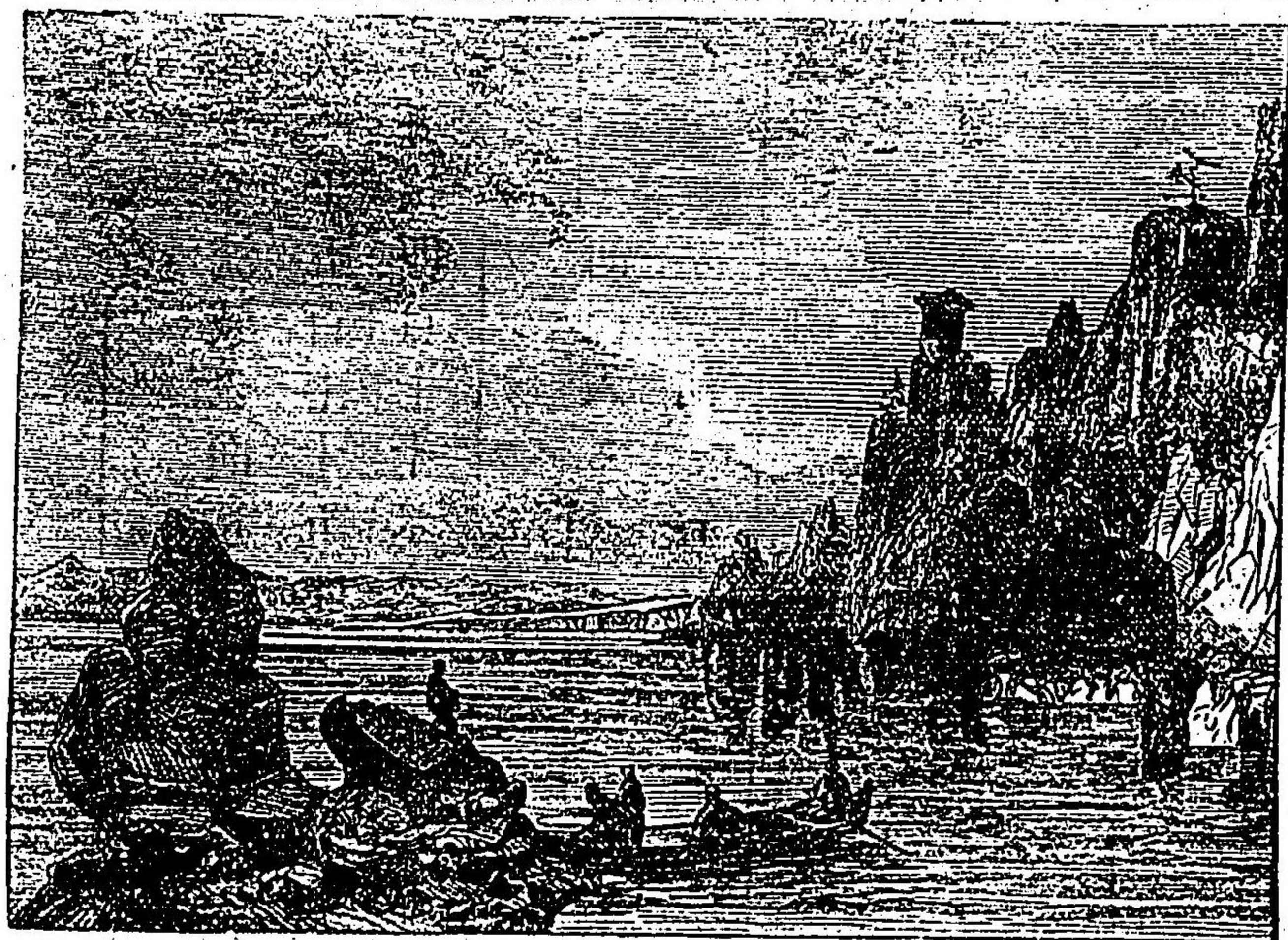
アンカラ

イエニセイ

レナー

アムール

河に入る、ウルンガル、イルチシ、オブ河の長は四千二百浬
にして流域の面積は三百五十萬方浬に達す、セレンガは海
抜一千五百七十五米突の地に於けるクスクル湖より出で
、海拔四百七十米突のバイカル湖に入る、而して同湖を出
づるヤアンガラと稱しイエニセイスクの附近に於てイエ
ニセイ河に入る、イエニセイ河はサイヤン山脈の南面に發
しアンガラ河を容れて北行し一大河灣を成てて海に入る、
セレンガ、アンガラ、イエニセイ河は四千七百五十浬の
長、と二百九十五萬方浬の流域とを有す、レナー河はバイカ
ル湖畔の山脈に發源し東流してヤクーツクを經、方向を北
に轉じ三角洲を爲して海に入る、河長は八千八十浬にして
流域は凡そ二百萬方浬なり、アムール河(サガリエンツラ又は黒龍江と云ふ)は前
記の三大河と相伯仲するものなるがロシヤに屬する部分



は中流又は下流の左岸にして河口はタルタリ海峽の北部にあり、沼湖の中にてはバイガル湖を以て最著しとす、此の湖は長六、百四十軒、潤三十二乃至八十五軒にして三萬五千方軒の面積を有す、海拔四百十六米突の地にありて上アングラ、セレンガ等の諸水を容れアングラ

河に依りて水をイエニセイ河に注ぐ、本湖は最深の處に於て一千三百七十三米突に達すれば世界の最深湖と稱するを得べし

シベリアを分ちて四帯とす、北緯六十五度以上にある地を凍土帯とし、同五十五度乃至六十五度の地を森林帯とし、五十五度以南の地を曠野帯とし、山岳に富める南部の地を山岳帯とす

氣候は純然たる陸候にして全國至る處寒暑の差甚たし、而して東部と北部は寒威最、強く寒極と稱せらるゝペルホイアンスクは北東の地にあり、されば冬季に於ては河流は悉、結氷し土地は積雪の下に埋没せらる、降雨は南より東に赴くに從ひて其の量を減じ夏季には概して乾燥を極む、氣温低く湿度不充分なれば植物の生育は遅々たるも森

天 産

氣 候

地 勢

住民

林は中部一帯の地を蔽ひて、松、樅、銀松、新羅松、落葉松、等を産す、動物は寒地特有の毛皮獸に富み、黒狐、黒貂、銀鼠、紅狐、白狐、等を有す、其の他、熊、罷、海獸の類も少なからず、而して家畜の主要なるものを馴鹿、馬、羊とす、鑛物の産も少なからずして、金、銀、銅、錫、鉛、鐵、石炭、等あり、

人口は土地の廣大なるに拘らず、僅に五百七十三萬に過ぎずして、其の分布は南部に偏し、北部は極めて粗なり、人は甚、錯雜にして、北部にフィン種族あり、中部、東部に蒙古種族、トングス種族あり、西部にトルコ種族あり、スラブ種族は大小のロシヤ人、ユザク人、等を抱括して、各地に散在し、多少のシデア人は市街の地に住せり、宗教の中にて最、勢力あるものは基督、正、教派にして、スラブ種族を始めとし、其の他、教化の民の信する所なり、ラマ教、シマン教は共に佛教の別派

政治

なるが、ブリヤト、サモイェド、オステアク、トングス、ヤクード、等の間に行はる、教育は稍、觀るに足るものあり、小學校、中學校を各地に設け、大學校をトムスクに置けり

行政上の區劃は省、州、府にして、省、州に知事を置き、府に長を置く、又別にサハレン島の長官を置けり、而して若干の省州を合せて、總督の管區とす、然れどもトボルスク、トムスクの二省は内務省の直轄たり、

總督管區	省	州	府	面積	人口	人口粗密	首府
アムール	沿海州	二	一八五、四三三	三三、〇五七	〇、一〇	ウラヤチストツク	
面積 二九、一四三	サハトン島	三	七、九七六	二、八二六	〇、四〇	アレキサンドロウ	
人口 二〇三、三三四	アムール州	一	四、七六七	一一、八七〇	〇、一四	ブラコエチエンスク	
香府 ハバロフカ	後バイカル州	四	六、三三六	六、四〇七	一、一〇	チタ	
イルクーツク	イルクーツク	五	七四、三三三	五〇、五二七	〇、七〇	イルクーツク	

兵備

生業

陸兵に平時の五萬と戦時の九萬とありてアムール、イルクーツク、オムスクの三軍管區を置く、而して有名のコザック兵は所謂屯田兵にして各地の要處に駐在せり、又シベリア艦隊は一萬五千噸を有せり、

獵獸は栗鼠、黃鼠、兔、狐、貂等の毛皮を興へ、漁業は鮭、鱒、海獸等を捕へ、牧畜は馬、犬、馴鹿、綿羊、山羊、豚等を飼養す、農業は大麥、小麥、裸麥等の穀物を産じ、鑛業は砂金、銀、鉛、銅、鐵を産せり、

面積	七、七、二、四、二	ヤクーツク	五	三、七、一、四、四	二、六、一、七、二	〇、七、七	ヤクーツク
人口	二、三、八、五、〇	イニセイスク	六	二、五、七、七、五	五、九、九、〇、二	〇、二、〇、〇	イニセイスク
首府	イルクーツク	トボルスク省	二〇	三、九、七、六、二	三、八、四、八、四	一、四、〇、〇	トボルスク
内務相直轄		トムスク省	四	八、七、七、九、二	一、九、〇、九、二	二、三、〇、〇	トムスク
總計	四省、四州、二區	三	三、五、一、八、九、九	五、七、七、七、〇	〇、五、〇		

交通

而して此の土は天産に乏しきに非ざるも人口の稀少なると交通の不便なるとは製造工藝の發達を妨害して其の進歩は甚遅緩なり、又貿易は輸入に五千七百萬「ルーブル」あると輸出に八千二百萬「ルーブル」あるとの外に二千萬「ルーブル」前後の通過貨物あり、貿易港の主要なるものはウラヂナストック、ニコライスクなるが清國との貿易は陸路に依りて實行せらる、而して輸出品の重要なるものは貴金屬、穀類、毛皮類等にして、内部に於ける百貨の集散は毎歲各地の要處に開設せらる、年市に依るものとす、

交通は未充分の發達を見ざるも漸次に進歩せんとせり、陸路の主要なるものに一萬二千軒ありて水路はアムール河、バイカル湖、並にオプ河に設けらる、有名のシベリア鐵道は未建造を了へざるも西の方ミアスクに起りナツアピン

スク、オムスク、トムスク、下ウヂシスク、イルクーツク、上ウヂ
シスク、ナタ、ブラゴエナシスク、ハバロフカを経て東の方ウ
ラヂナストクに達すべきものにして其の延長は七千七百
料を超過すべし、又電信線は主要なる市街を連絡せり

トボルスク(二、〇〇〇)はイルナシ、トボルの二流が相會す
る處にあり、ロシヤ人が始めて市街をアシアに設けし地に
して魚類の賣買に従事す、省廳あり、トムスク(五、二〇〇)は商
業の中心にして省廳并に大學校の所在地なり、イルクーツ
ク(五、一〇〇)はシベリア屈指の都會にしてアンガラ河に瀕
す、總督府の所在地なり、キクタは清國との陸路貿易の地に
して盛に茶葉を輸入す、ブラゴエナシスク(三、二〇〇)はアム
ール州の首府にして農業地の中心なり、ウラヂナストク(二、
〇〇〇)はペートル大帝灣中の一港に瀕す、港内は廣大安全

にして沿岸の地は崎岬に富み最、防衛に適す、沿海州の首府
にして軍港はシベリア第一と稱せらるゝも毎年數ヶ月間
は結氷の爲に使用するを得ず、アレキサンドロフはサハレ
ン島の首府にして同島長官の居住地なり、コルザコフ港は
人口二千人を有するが稍繁華なり、ドウエ港は船舶の碇泊
に便ならざるも人口は二千五百に達せり

ナメン(二、五〇〇)は工藝の地なり、クラスノヤルスクは省廳の所在地に
して砂金を産す、チルナシスクは鑛業の中心なり、ハバロフカは總督府の所
在地なり、ニコライスクは一の商港を有す、

たせあにあ洲

中等普通地理教科書

外國地誌

おせあにあ洲目次

大陸部

オーストラリア……………二

タスマニア……………一五

鳴嶼部

沿岸鳴嶼……………一九

マレシア……………一九

メラネシア……………二三

新シラランド……………二六

大洋鳴嶼……………二九

ミクロネシア	二
ポリネシア	二九
.....	三二

中等普通地理教科書

野口保興 著

外國地誌

オセアニア洲にあ洲

オセアニア洲即ち太平洋洲とはオーストラリア大陸、沿岸嶋、
 嶋並に太平洋に基布せる數多の嶋嶼を合せ稱するなれど
 も地積は九百三十五萬方呎に過ぎずして五大洲中の最小
 なるものなり

極北	クレスボ嶋	北緯凡三十二度四十六分
極南	マッカリ嶋	南緯凡五十五度十五分
極西	インスクリアン岬	東經凡百十四度
極東	サライゴメス嶋	西經凡百五度二十八分

境
域

オセアニア洲を二部に分たんに其の大陸部はオーストラリア大陸とタスマニア島とより成り七百六十九萬方呎の地積を有し其の島嶼部は百六十六萬方呎の地積を有するが巨大なるものは大陸の海岸に沿ひ細微なるものは渺漠たる洋中に散在せり

大陸部

●オーストラリア

オーストラリア即南大陸はアジア洲の南東にあり形状は扇の地紙に似て東西に稍長くして凡三千八百方呎を有し南北は凡三千一百方呎なり而して面積は凡七百六十三萬方呎なり

海岸線の延長は一萬三四千方呎あるも彎曲少なく港灣に乏し南海岸の西部はオーストラリア大灣と稱して一大

圓弧を爲せるも海濱は低平なる砂洲にあらざれば一百乃至二百米突の絶崖にして一の細流たも存するなく小港の如きも皆無なり又西海岸も殆同様の狀況を呈せり之に反して南岸の東部並に東岸の南部は山岳丘陵に富み鬱鬱たる綠樹繁茂して到る處風色の賞すべきあり然れども北東岸は珊瑚質の大礁堤に圍まるるを以て船舶は容易に接近するを得ず又北岸に於ては顯著なる一二の彎曲あるも利便を供すべき港灣に乏し而して稍著しき海港灣を擧ぐれば北にナモール海、ダル井ン港、バンヂエメン灣、カルバンタリア灣あり東に珊瑚海、ジクソン港あり南に南海、ホリップ港、セントビンセント、スペンサーの二灣あり

岬崎の主要なるものは北にウイベルホルス、ヨークの二岬あり、東にパイロン岬あり南東にホウ、井ルソン、チルソン

山
岳

の三港あり、西にスチープ港あり、半島にはカルバンタリア
及、ヨークあり、島嶼の顯著なるものは北にバサースト、メル
ビル、グレート、エレスレイ、木曜等あり、東にフラザーあり、南
には著大なるタスマニアの外、フリンダース、キング、カンガ
ルーあり、西にダークハルトあり

本大陸は一大高原をなすも其の海拔は著しからず、四圍
に於ける山脈も高嶺秀峯に乏しく南東部の最高點たるユ
スシユスユと雖、直立は僅に二千二百四十一米突に達する
のみ、而して主要なる山脈はオーストラリア、青山、ピ
レネー山脈、大分水山脈等なりとす、内部は廣漠たる荒蕪不
毛の臺地なるが此處彼處に孤立せる丘陵ありて概、東西或
は南北の方向を有せり

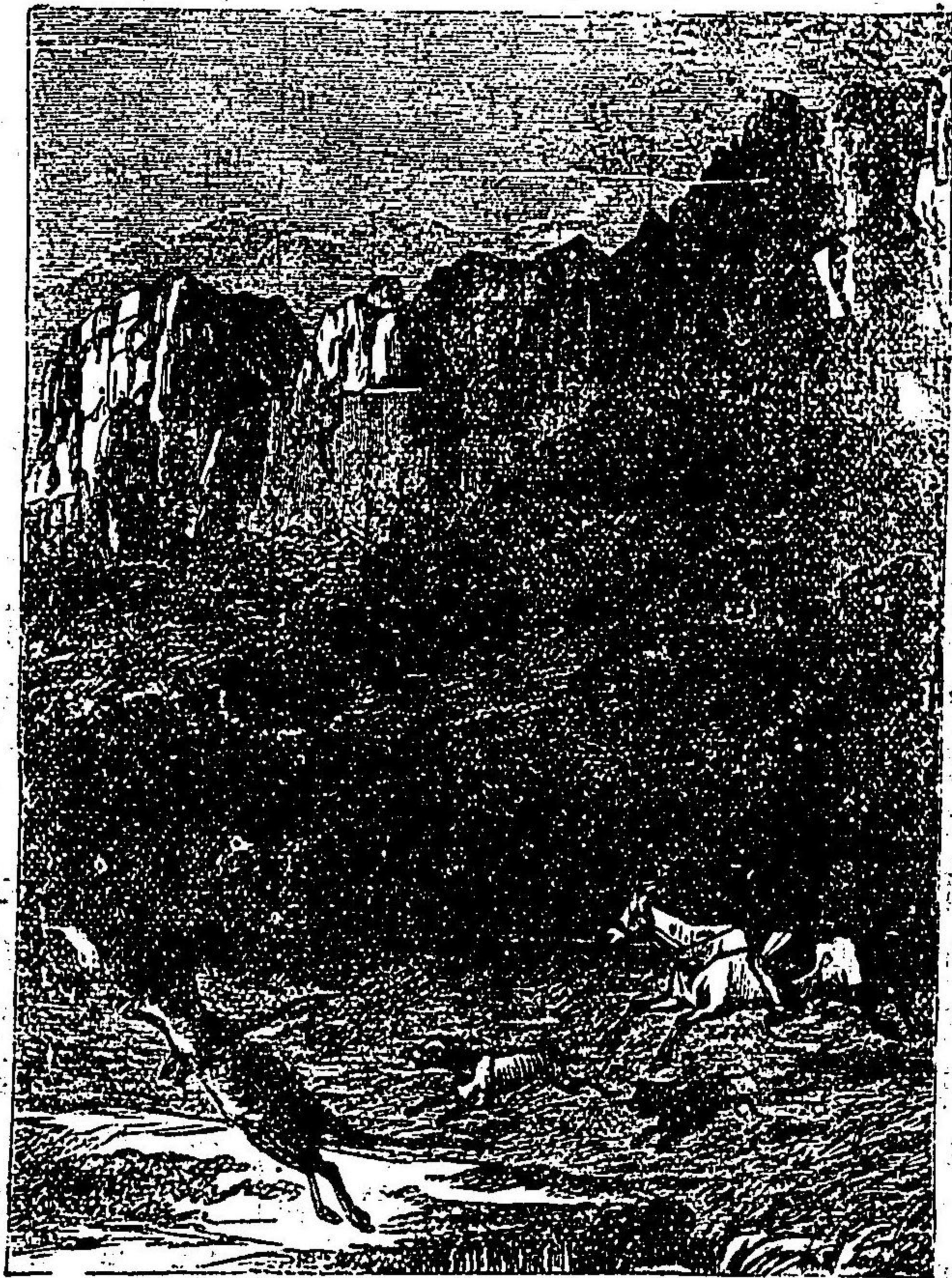
河
流

オーストラリア大陸は高山秀嶺に乏しき平坦なる臺地

より成れるを以て降雨少なく氷河積雪を見ること能はず、
されは氣候は乾燥に失して河流の水量の如きは極めて少
なく唯一のムーレイ河あるのみ、此の川は水源をオースト
ラリアアルプのユスシユスユ山に發しイペリナの平野を
潤してアレキサンドリナ湖を經、水底淺き潟を爲して南海
に注ぐ、長さは一千八百浬にして流域は百萬方浬なり而して
支流はラクラン河の水を受くるムーラ、ビツナ及本流より長
きダリング河(二〇〇〇浬)等あり

西部の地は傾斜極めて少なきを以て大雨の降下したる
後は平野は化して沼澤と成り、各地に細流の出現するある
も、一定の方向を有する河流を形成するに至らず、而して内
部の低地にはエイヤ、ガイルドチル、トレンス等の沼湖あれ
ども水層は甚厚からず

沿海の地殊に南東岸は氣候佳良にして概健康に適すれども降雨は甚多からず而して内部に於ては熱風吹き降雨



六
稀にして
空氣は乾
燥に失す
地味肥
腴にして
鼠草木の繁
茂するは
南東の沿
岸にある
も植物の
種類は甚

少なくて僅に「アカシア」「ゴム」等の數種に過ぎず然れども有名のウカリプナスは直立百五十突米以上に達し樹木の王たるに耻ぢず動物に於けるも亦種類に乏しく牛馬羊犬等の如き凡てヨーロッパ人の移殖に係り而してカンガルー、ダシユル、アイ、オルニソルヒング、カソパール、鸚鵡類等を觀るに過ぎず、鑛物には多量の金を産す之に次ぐを銅とす、其の他、多少の銀、鉛等あり、石炭は其の量少なからざるも炭質には缺くる所なきに非ず

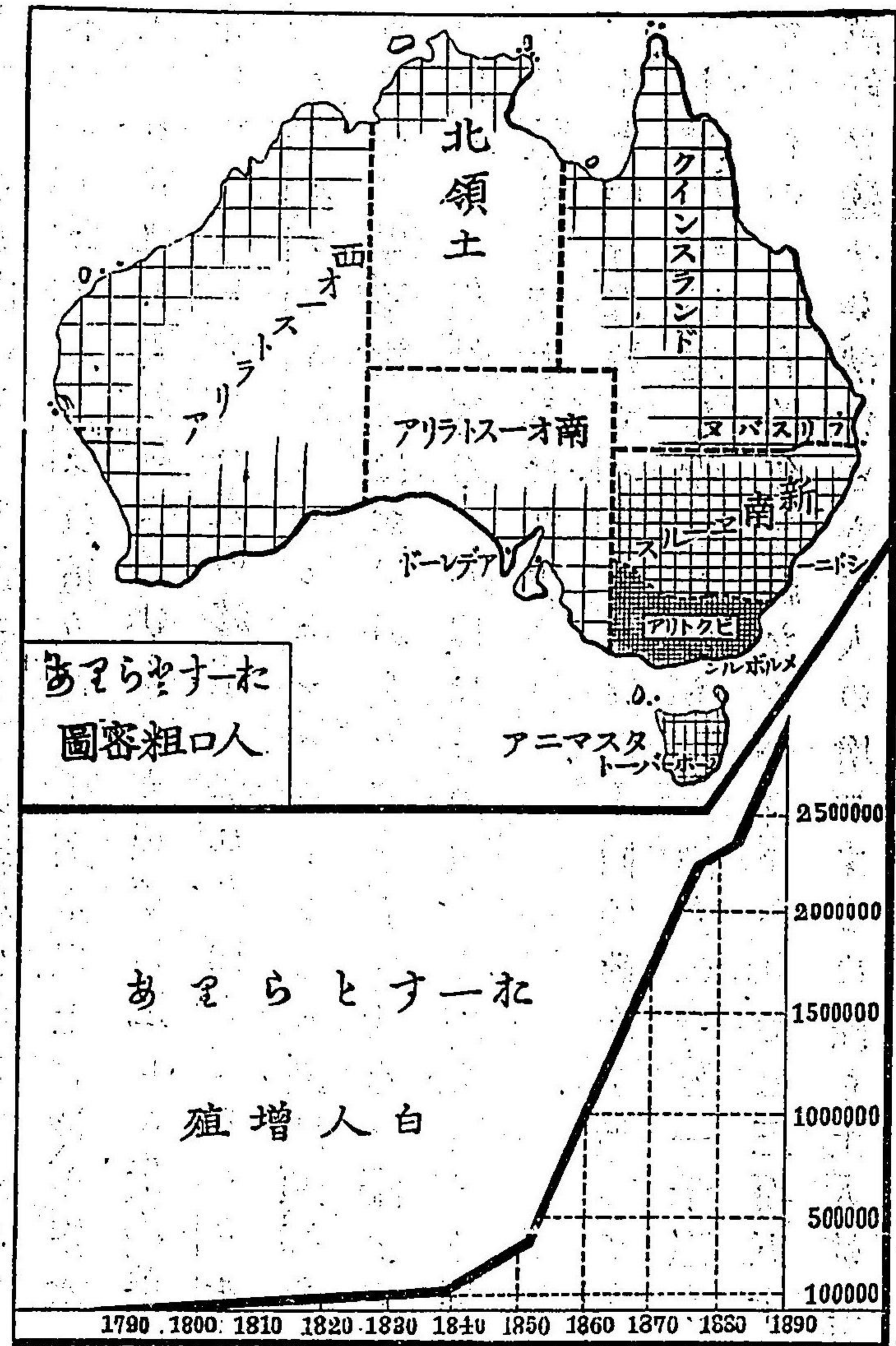
本大陸は擧げてイギリスに屬す、同國政府が始めてポタニー灣に殖民地を設けしときは西洋人の數は一千三十人なりしが一百有餘年を経たる今日にありては三百五十六萬餘に達せり、然れども白人の増加するに際し土人は漸減少して僅に五萬五千を餘すに過ぎず、又西洋人の多數はイ

政治

北アメリカの殖民地が獨立して合衆國を創建せし實例に鑑みイギリス本國は西オーストラリアを除くの外オーストラリアの各殖民地に自治制を布けり而して各殖民地間に存する競争は甚盛にして關稅線を初めとし種々の施設は共同を謀らんとするに非ずして寧ろ分立を鞏固にせん

宗教

ギリス人なるがドイツ人の數も少なからず而してアジア人にして此の土に移住するものは甚多からず國教は存せされども住民の多數は耶蘇新教を奉ずるを以て天主教徒の數は六十萬を超過せざるが如し而して高等教育はシドニー、メルボルン、アデレードに大學を有し中等教育は盛ならざるには非ざるも政府の保護を受くる學校は少なくして私設のものは反りて多し初等教育は殆ど強迫的にして貧民の子弟には無月謝にて授業せり



兵備

とするにあるが如し然るも近來ドイツ人、フランス人が本大陸附近の嶋嶼に來りて事業を起さんとするを觀るや日常の競争あるにも拘らず一大聯邦を組織して他國人の來侵に當らんとするの傾向を現はせり、而して各殖民地に行はるる憲法は大同小異にして何れも本國の憲法に類似せり、總督はイギリス皇帝の任命する所なるも貴族衆議の兩議院ありて立法の事を司り且又本國に行はるる法律と雖、殖民地議會の協賛を経されば之を施行することを得せると同時に殖民地議會の制定に係る法令も本國皇帝の裁可を仰がされば有効と成らず、兵備は陸兵に二萬五千餘ありて兵艦に凡二萬二千余噸あり

殖民地	地積	人口	租密
クギンストランド	一七三、〇七二	四八、四七〇	〇・二

生業

新南エールス	附屬地	ビクトリア	南オーストラリア	北領土	西オーストラリア	合計
七九九、一三九	六五	二二九、〇七八	九八、五七二〇	一三五、五八九一	二五二、七二八三	七六二、七八九七
一三三、三四六〇	五一四	一一七、六三三八	三五、八二二四	四八、二〇	一六一、九〇八	三五〇、九八六四
一・六	八	五	〇・四	〇・五	〇・四	

農業は穀類、牧草、馬鈴薯、葡萄、烟草、實綿、砂糖等を産するがビクトリア、南オーストラリアは首位を占め新南エールス、クギンストランドは之に次げり、牧業はオーストラリア第一の生業なるが殊に綿羊の餌養、盛に行はれ、總頭數は七千萬以上に達せり、實に生毛の産額に就きては世界第一と稱せらる、而して本業に關しては新南エールス首位に居りてビ

クトリア、ク井ンストランド、南オーストラリア等之に次けり、
 鑛業は多量の金を産じ其の他、銅、鉛、銀等を産す而して主要
 なる産地は金に、パ、ラ、ット、ジ、ム、ビ、ーあり、銅に、バ、ル、バ、ラ、ワ、ル
 ラーありて銀はク井ンストランドより出づ、又石炭も少なから
 ざるが主として新南エールスに産じ、ニ、ー、カ、ス、ルは最著名
 なる集散地なり、工藝は未だ隆昌に至らざるも製造場の創設
 又は増設は各殖民地の主要なる市街の地に於てせり、貿易
 は盛にして一千八百九十六年には輸入に六千二百五十萬
 磅ありて輸出には六千六百四十三萬磅ありたり而して輸
 出品中にて首位を占むるものは生毛にして其の價格は二
 千五百萬磅に達せり、又生毛に次けるは金、鉛、銀、肉類、畜類、皮
 類、脂類、酪類、砂糖、石炭等なりとす

殖 民 地	輸 入	輸 出	合 計
-------	-----	-----	-----

新南エールス	二〇五六二 <small>千磅</small>	二三〇一〇 <small>千磅</small>	四三〇七三 <small>千磅</small>
ビクトリア	一、四、五、五、五	一、四、一、九、九	二、八、七、五、四
南オーストラリア	七、一、六、一	七、五、九、四	一、四、七、五、五
ク井ンストランド	五、四、三、三	九、一、六、四	一、四、五、九、七
西オーストラリア	六、四、九、四	一、六、五、〇	八、一、四、四
合 計	五、四、二、〇、五	五、五、六、一、七	一〇、九、八、二

交 通

鐵道は凡そ二萬二千九百軒にして郵便は七千足らずの局
 を有じ、電信線は凡そ八萬軒あるが海底線は、ダ、ル、井、ン、港、を、シ
 ア、バ、ー、島、の、パ、レ、シ、ウ、ン、ギ、に、連、ね、シ、ド、ニ、ー、を、新、シ、ー、ラ、ン、ド
 の、チ、ル、ソ、ン、港、に、連、ね、メ、ル、ボ、ル、ン、を、タ、ス、マ、ニ、ア、の、シ、ヨ、ー、ジ
 タ、ウ、ン、に、連、ぬ

メルボルン

メルボルン(四五、〇〇〇)はヤラヤラ河に跨りホドソン灣
 に臨める市街なるが商業繁昌にしてオーストラリア第一

シムロ

アフレード

プリズバン

と稱せらる、ベンヂユ(二七〇〇)は内部に於ける要地にして
 バルララド(二四〇〇)は産全地の中心なり、シドニー(四一〇
 〇〇)はシクソン港に瀕す、オーストラリア最舊の市街にして
 て工藝も稍盛なり、文化の地、娛樂の地として、はオーストラ
 リア第一なり、ニーカスルは石炭を以て、名を知らる、アデレ
 ード(一四、五〇〇)はトレンス河に瀕す、南オーストラリアの
 首府にして繁華の地なり、麥を輸出す、クーリンガ井にワラ
 ルーは銅の産地なり、プリズバン(一〇、〇〇〇)は一小河の口畔
 に於ける市街なるが石炭を輸出す、シンビーはオーストラ
 リア産金地の中心として名を知らる、ロクハンプトン井に
 タウンスビルは小港を有す、木曜島はヨーク岬附近に於け
 る錨地なり、ペルスは一小市街なるも西オーストラリアの
 首府あり

タスマニア

●タスマニア島

本島はパースの海峡を隔ててオーストラリア大陸と相對
 す、島の形狀は等邊三角形にして面積は六萬七千九百方呎
 に近し、海岸は彎曲は富めるを以て西にダービー港、北にソレ
 ル港、南に暴風灣、有望灣等あり、土地は起伏に富み灌漑の便
 を備ふ、氣候は温和にして極めて人身に適し、降雨は充分に
 して特に西岸は多量の雨を受く、從ひて地味肥沃にして各
 種の天産も亦少なからず

人口は凡十七萬二千に達するが黒色の土人には一人の
 生存するものなし、住民の多數は耶蘇新教を奉じて天主教
 徒の數は三萬に過ぎず、教育は稍盛なり、政體は大陸の各殖
 民地と同様なり、農業は穀類、果實を産し、牧業は綿羊を飼
 養し、鑛業は錫を採掘す、貿易は輸入に百二十萬磅あり、輸出

に百五十萬磅あり、鐵道は七百六十四軒ありて主要なる市街の地を連絡せり、ホバート(三、八〇〇)はデルエント河の畔にあり、本島の首府なりとす

島嶼部

島嶼部即眞のオセアニアは一大島及若干の中島と無數の小嶼とより成れり、其の沿岸島嶼は西部をマレシアと云ひ中部をメラネシアと云ひ南部を新シーランドと云ふ、其の太平洋嶼は北西部をミクロネシアと云ひ東部にありて赤道の北と南とに亘れるをポリネシアと云ふ

太平洋は貿易風の吹き荒む所なるが西方に赴くに從ひて群集せる島嶼は氣流に逆ひて其の進行を妨げ、殊に季候風の吹き來る處にありては一定の方向を有する能はず、而して貿易風及季候風は共に多量の雨を輸送し來れるが買

境域

氣候

天産

易風の衝に當れる島嶼にありては降雨充分にして地味佳良なり、就中貿易風と季候風とが交替するの地にありては雨水の降下甚多し、是メラネシア諸島に良土を見る所以なり、之れに反して平低なる島嶼は熱し易きが故に海岸より來る濕氣を止むる能はされば降雨極めて稀なりとす、各處に於ける群島の平均温度は北部の二十五度乃至三十五度なるが新シーランドの南にありては十五度乃至十度に於て土地に依りては十度以下に降ることあり

動植物は概してアジア的にしてオーストラリアの生物に類するものは甚少なり而してハワイ群島にありてはアメリカ的の動植物を觀ると云ふ、要するに生物は東漸するに從ひて欠乏を告ぐるが如し、殊に低島に於ける植物は「コユア」「パンダニス」「イグナム」「タロ」等の數種に過ぎずして各地

住民

に普及せる動物は鼠の一種あるのみ、バプアシア、新ジラ
 シンドの如き大島に於けるも巨大なる獸類を観る能はず、然
 れどもバプアシアは有袋類を有するの外、鳥類、虫類に富め
 り、殊に外觀の美を盡せる極樂島の産地として名を知らる、
 而して本部の天産として稍著しきものは、コブラ、檀香、砂糖、
 穀類、銅、ニッケル、黄金、石炭、等なり

黒色のバプア人、ネグリティス人あり、淡色のポリネシア人
 あり、新ジラランドのマオリス人並にミクロネシアの住人
 も概してポリネシア種に屬せり、黒色人は所謂野蠻民に
 て争鬪を好み、人肉を嗜むの風あり、淡色人は其の性、温和に
 して、友誼に厚く、外人と交際するを厭はず、文明を慕ひ、喜び
 て固有の習慣を捨つるものゝ如し、此の外、西洋人にはイギ
 リス人、ドイツ人、フランス人、ホルトガル人、オランダ人、エス

所領

バニア人あり、東洋人には支那人、日本人あり
 島嶼部は其の全部殆ど外人の掌中にあり、外人の所領に歸
 せざるものは太平洋の中央に於ける若干の小嶼と僅に獨
 立の外觀を存するサモア群島あるのみ、

領地	面積	主要島嶼
オランダ	七六、九九二四	小ソングラ列諸、セレベス島、モリツカ諸島、西バプアシア
ホルトガル	一六三〇	チモール島(北東部)、カンビンゲ島
ドイツ	二五、四〇一〇	北東バプアシア(井ルヘルム帝地)、ビスマルク諸島、サロモン諸島、(北西部)マルシヤル群島、マリアナ諸島、カロリナ諸島、パラオス諸島
イギリス	五四、三八二八	南東バプアシア、マツシム諸島、シルベルト諸島、エールス諸島、サロモン諸島(南西部)、ローシー諸島、新ジラランド、クーク諸島
フランス	二四、一九三	新カレドニア、ロイヤルチー諸島、ツリス島、ソシエテ諸島、ツアモツ諸島、マルキーズ諸島、ツプアイ諸島

沿岸島嶼

マレシア

マレシア

マレシアは沿岸諸島の北西部を占め小ソングダ列島、セレベス島、モリッカ諸島等を包括せり

小ソングダ列島

小ソングダ列島は東西に亘れる火山質の島嶼にしてロンボク、サムババ、スンバ、フロレス、ナモル等より成れり、ホルトガルに屬するナモル島の一部を除くの外は本列島は悉くオランダの領土たり、ロンボク島は小ソングダ列島中の極西に位せり、直立四千米突以上の火山を含めるが、地味の豊肥ならざるに拘らず、灌漑の便あるを以て耕地は少なからず、住人はマライ人にして其の數は五十萬以上あり、スマバ島は檀香を産するを以て名あり、四十萬の住人は此の地にあり、ナモル島は列島中の極東にありて凡そ六萬方呎の地積を有す、住人は八十萬なるが其の種族は甚だ錯綜せり、バプア人あり、インド人あり、清國人も亦少なからず而してオランダ人

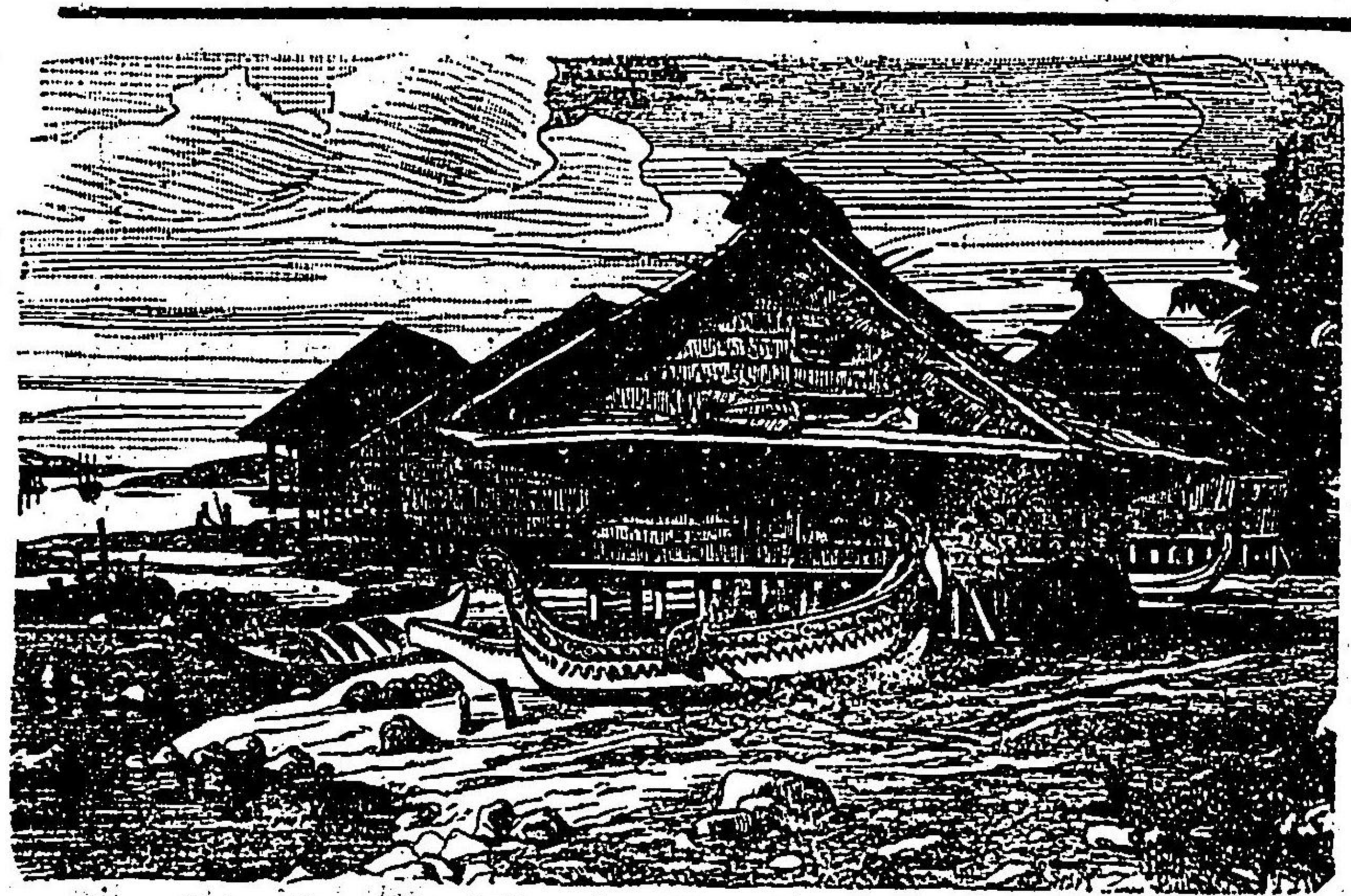
セレベス島

は南西部の四萬六千方呎の地を占め、ホルトガル人は北東部とカンビング島とを合せて一萬六千方呎の地を領せり

セレベス島は北、北東、南東、並に南の四箇の半島より成りて其の形極めて奇異なり、面積は十七萬七千餘方呎に過ぎざるも海岸線の延長は五千九百呎に達せり、住民の數は六十萬なるが主として、ブーギー人より成れり、マホメト教を信じ好みて商業を營む、本島はオランダの領土なるも實際にオランダ人が駐在するは沿海の地に限り、其の他、アラビヤ人あり、支那人あり、又内部の地には土民も少なからず、マカッサル(一、〇〇〇)は一の良港を有せり

モリッカ島

モリッカ諸島は一名を香料諸島と云ひてシロロ、セラム、ブルの三大島とテルナト、チドル、アンボイヌ、バンド等の小島及び數多の小嶼より成れり、シロロ島は赤道直下にありて四



箇の半島より成れるが其の形状恰蜘蛛の如し、人口は二萬五千にして多少のアルフル人あるも主なるものは回教マライ人なりとす、ブル島は森林に富めるが住人は六萬五千の回教マライ人なり、セラム島(二、八二〇〇)は森林多く漁「ゴユア」、珈琲「サグ」等を産す、(村住民はバプア人又はアルフル人なるが其の数は二十萬にして沿海の地に居る、アンボイヌ島は小島なれども森

林に富み肉荳蔻を産するを以て名を知らる、住人の多数はマライ人にして一部はオランダシラニ人、支那人、オランダ人等より成れり、アンボイヌはモリッカ知事の居住地なり、バンドラ島も肉荳蔻を産するを以て有名なり

●メラネシア

メラネシアは一大島バプアシアとビスマルク、サロモン、サンダクルス、新ヘブリヂ、新カレドニア等の諸群島より成りてオーストラリア大陸の北東の沿海に亘れり
 バプアシア島は世界第一の大島なり、長は二千三百九十浬にして幅は六百六十浬なるが面積は七十八萬五千三百六十二方浬に達せり、海岸は屈曲に富まざるも亦多少の港灣を有せり、内部には山岳多く急峻なる山脈は全島を貫きてシ、ルル、ル、イ山(五二〇〇)、オエンスタンレイ(四四〇〇)等の高山

世界十大嶋地積比較圖

方料	十 万	二十 万	三十 万	四十 万	五十 万	六十 万	七十 万
1							78,5362
2							74,0840
3							59,1964
4							44,0000
5							22,6579
6							15,0697
7							13,1523
8							12,8473
9							11,3833
10							10,0000

新ヘブリッヂ

を抱括せり、而して河流も少なからざるがフライ並にアンペルノは稍、其の名を知らる、氣候は概良好にして土地の高隆なると降雨の多量なるとに依りて氣温は寒暑とも激烈ならず、動植物はオーストラリアに産するものと甚相似たり、カンガルーは森林中に棲住し鳥類には鸚鵡多く羽翅の美を極むる極樂鳥は此の地の特産なり、住民は概黑色のバプア種なるも土地廣大にして地勢一様ならざれば多少の差異あるを免れず、然れども其の氣質は一般に快活温和にして甚しく外人の來住するを嫌はざるが如し、而してイギリスは南東部(二二、〇〇〇方料)を占め、ドイツは北東部(一八、〇〇〇)を領してオランダは西部(三八、〇〇〇)を保有せり。

新ヘブリッヂ諸島(一、三三二七方料)は南緯十度乃至二十度に亘れるが概して火山質を有せり、住民はバプア人にして

新カレドニア

境域

極めて強壯なるが、其の数は六萬二千餘あり、本地は無所屬なるも寧ろイギリス、フランスに兩屬すと云ふべし。

新カレドニア島並にロイヤル諸島を合すれば地積は凡そ二萬二千方料と成る、人口は六萬三千にして其の内、西洋人は一萬五六千なり、土地肥沃にして食牛、珈琲、材木を産じ、ニッケル、銅に富む、本地はフランス人の所領なるが首府ヌーメアは一の良港を有し商業稍盛なり。

ヒーヴァー諸嶋はサクレバ、ヌアラレの二嶋と三百餘の小嶋とより成れり、人口は凡そ十三萬にして土人は黒色人なるが西洋人は三四千に過ぎず、氣候は健康に適するも時々悪疫の流行するありて爲に土人は減少すと云ふ本嶋は擧げてイギリス人の所領なるが實綿と甘蔗とを産せり。

●新ジロランド

新ジロランドは南と北との二大島とヌナワート以下若

山岳、河流



(湖ボウタ)

千の小嶋より成れり、面積は北島の十一萬八千三方料と南島の十五萬八百二十方料との屬島の六千三百方料を合はすれば二十七萬五千四百二十方料ありて海岸の延長は四千八百料に達せり。

南北の二島は共に山岳に乏しからずして二千米突以上に達

する火山の數も二三に止らず、殊に南島には高山秀嶺多く、
皚々たる氷河を戴くものあり、河流は北島にワイカトあり
て南島にクルシ、あり、沼湖は北島にタウポ(七七五二方升)あり
て南島にテアナウあり、氣候は概健康に適し、到る所、爽快を
覺ゆ、降雪は平地に稀にして降雨は西岸に多し

住 民

住民は土人にマオリス人あるが其の數は漸次に減少し
て一千八百九十六年には四萬に達するを得ざりき、之に反
して西洋人の増加は著しうして一千八百九十七年には凡
七十三萬に達せり、而して此等の西洋人中にはイギリス人
最、多くしてドイツ人、其の他は至りて少なし

生 業

農業は穀類を産し、牧業は綿羊を飼養し、鑛業は金、石炭、銀、
等を採掘す、貿易は輸入に七百十四萬磅ありて輸出に九百
三十二萬磅あり、輸出品の主要なるものは生毛、黄金、鹽肉、穀

都 邑

類なり、鐵路は三千三百軒ありて電信線の延長は八千九百
軒なるが海底線はチルソンとシドニーとを連絡せり

エリントン(三、七〇〇)は殖民地の首府なり、北島の南端に
ありてクーク海峡に臨めり、ニエルソン港は廣濶にして水
深く安全なる點に於ては全島第一と稱せらる、オークラン
ド(三、一〇〇)は同じく北島にあり近傍の村落の人口を合す
れば五萬七千餘を得べし、南島にありてはダヌギン(二、二〇
〇)并にクリストーチャー(一、七〇〇)を以て著名の地とす

太平洋嶋嶼

● ミクロネシア

ミクロネシアはオセアニア洲の北西部を占む、我が國の
三十倍以上に當れる海面に點布するマリアナ、カロリナ、パ
ラオス、マルシャル、ギルベルド、エリス、等の諸群島即、六百有餘

の小島より成れるが地積は僅に三千五百方呎にして人口は總數十一萬餘なり

マリアナ

マリアナ群島は北緯凡十度より同二十度に亘れるも地積は一千一百四十方呎に過ぎず本群島は火山質に屬し山岳に富めるが涼風絶えずして甚しき炎暑を感せず九千の人口は主として土人より成るもエスバニア人の血液を交ふるもの少なからずアメリカ合衆國に屬するグアム島五一四を除くの外本群島は悉ドイツ國の所領なり

カロリナ

カロリナ群島及パラオス諸島は北緯五度より十度に至り東西は凡三千五百呎に亘れるも地積は一千四百五十方呎に過ぎず其の高島は山岳に富みて樹木蒼鬱たり其の低島は乾燥に失するを以て草木少なし氣温は緯度の低きに拘らず炎熱を覺ゆることなし住民の數は二萬二千なるが

マルシヤル

種屬は一樣ならず群島中の主なる島はルク島ボナペ島グプ島等なりとす本群島も亦ドイツの所領たり

マルシヤル群島は北緯十度の圓線の南北に點布せる數多の小嶼より成れるが面積は四百十五方呎に過ぎず此等の小嶼は何も平低にして珊瑚質を有せり氣温は夏季は四十五度に達することあるも冬季は三十五度に降ることなく驟雨來りて土地を潤し涼風起りて暑氣を洗ふ人口は一萬六七千なるが總酋長はオヂア島に住居せり而して本群島の所領權はドイツ國に屬せり

● ポリネシア

ポリネシアは太平洋の東部に散在せる無數の小嶼にして赤道の南北凡三十度に亘りハワイ、サモアの二群島、マルキス、トンガ、ハーバー、タヒチ、等の諸島を包含せり



(道街樹子椰一嶋フアオ)

三十一
 ハワイ群島は一名
 をサントフィチ群島と
 云ふ、北回歸線附近に
 ありて航海上の要區
 たり、地積は一萬七千
 七百万平方呎にして、ポ
 リネシア中の最顯著な
 る島なり、本群島はハ
 ワイ、マウイ、ホアフ、カ
 フラ、等八個の島嶼
 より成れるが氣候適
 順にして風色に富み
 地味極めて肥沃なり

ハワイ島(二、一〇四六)は群島中第一の島にしてマウナロア
 (四、一四五)及マウナケア(四、二〇八)と稱する二大火山を有せり、
 此のマウナロア山は活動極めて盛にして熔解岩を噴出す
 る一大火山なるが實に世界第一と稱せらる、其の噴火口キ
 ラクウエアは海拔一千二百十米突の處にありて楕圓形を
 有し十五呎の周圍を有せり

群島の人口は凡十一萬なるが之を種族に依りて分別す
 れば土人(三、二〇一九)雜種(八四八五)、日本人(二、四四〇七)、白
 人(二、三四九三)、支那人(二、一六一六)等にして白人中にはホル
 トガル人(一、五一九二)、アメリカ人(三、〇八六)、イギリス人(二、二
 五〇)、ドイツ人(一、四三二)等あり

移住者年別表	
年次	移住者
一八九三	一八九四
一八九四	一八九五
一八九五	一八九六
一八九六	一八九七

來住者	五六七二	八二四四	八〇九〇	一三九八四	一二三七九
往住者	三九二六	五四七七	四六三六	六八五七	六五〇四

三十四

ハワイチイは舊王國たりしが共和國と成り再變してアメリカ合衆國の所領と成りたるが政事機關は未だ確立するに至らず、假に共和國の大統領は議會と參事院との補助に依り國政を司れり、生業は農業を以て主とし盛に砂糖、米穀、珈琲等を産す、而して貿易は輸入に八百八十四萬弗ありて輸出に一千五百九十三萬弗あり、而して輸出品の主要なるものは砂糖(二五三九)、米穀(二二)、珈琲(二〇)、香蕉(七)等なり、交通に關しては船舶に六十二隻、三萬四千噸あり、鐵道に百四十二軒あり、其他郵便、電信、電話の設けあり、首府ホノルルは三萬の人口を有する一都會なるがオアフ島にありて一の良港に瀕せり、交通の要區に當れるを以て市街は繁榮なり、

サモワ群嶋

ピロー港はハワイ島にあり、本邦人の居住するもの多し、サモワ群嶋は南ポリネシアの最要區たり、サワイイ、ウポル、ツツイラ等の十四個の火山質島嶼より成りて南十四度の緯線は其の中央を貫けり、地積は凡そ三千方軒にして人口は凡そ三萬五千餘なるが白人は五百人に過ぎずして土民はポリネシア種族に屬して耶蘇教を奉せり、サモワ王國の獨立は一千八百八十九年のペルリン條約に依りて、ドイツ、イギリス、アメリカ合衆國の認むる所となりしも實際に於てはドイツ人は權威を專にせり、貿易は輸入に百三十八萬餘マルクありて輸出に百萬餘マルクあり而して主要なる輸出品は「コブラ」實綿、珈琲、果物等なり、アピア港はウポル島にあり港内安全にして交通の要衝に當れり、王國の首府たるのみならず南太平洋中に於ける屈指の埠頭なれば商業稍盛

三十五

なり、住民には土人多けれどもドイツ人の勢力甚大にして商權は全、彼等の掌中にあるが如し、バンコバンコ港はツツイラ島に於ける一小港なり

トンガ諸島

トンガ諸島はトンガタブ、ババオ等の百五十餘箇の小嶼より成りて南緯十八度乃至二十二度に亘れり、島嶼は概して平低なるも中には一千五百米突に達するものなきにしもあらず、地積は凡、一千二百方疇なるが人口は三萬に達せり、スクアロハはトンガタブ島にあり、本群島の首府たり、此の地は目下は無所屬なるもイギリス人并にドイツ人は共に所領權を得んことを競ひ居れり

タヒチ諸島

タヒチ諸島は一千二百方疇の地積を有するが氣候良好にして實綿、甘蔗、椰子を産す、綠樹蔭鬱として頗る風色に富めり、人口は一萬一千餘なるが一千五六百のヨーロッパ人と四五百のアヲア人との外は凡てポリネシア人なり、貿易は全計凡そ二百餘萬圓にして漸に隆盛に赴けり、首府パピエーテは三四千の人口を有す、本群島はフランスの所領たり

たせあにあ洲終

明治三十三年一月七日印刷
明治三十三年一月十三日發行

普通地理教科書 外國ノ部上
定價 金六十錢

東京市本郷區西片町拾番地

著者 野口 保興

全 日本橋區通三丁目十番地

發行者 河出 靜一 郎

全 京橋區南傳馬町二丁目五番地

發行者 目 黒 甚 七

全 京橋區弓町二十三番地

印刷者 橘 磯 吉

全 京橋區弓町二十四番地

印刷所 三協合資會社